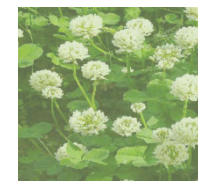
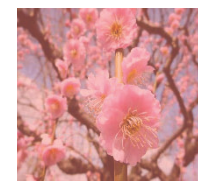


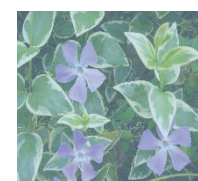
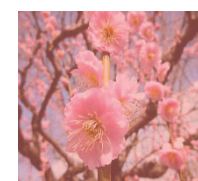
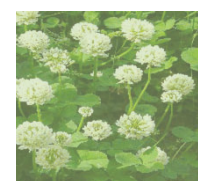
平成27年度
熊本県地域医療支援機構/地域医療システム学寄附講座
活動報告書



平成 27 年度

熊本県地域医療支援機構 / 地域医療システム学寄附講座 活動報告書

熊本県地域医療支援機構（地域医療支援センター）
熊本大学医学部附属病院 地域医療システム学寄附講座



目次

【１】はじめに

- 1.熊本県地域医療支援機構理事長挨拶
- 2.地域医療システム学寄附講座特任教授挨拶

【２】熊本県地域医療支援機構（地域医療支援センター）

- 1.年間スケジュール
- 2.スタッフ紹介
- 3.活動概要
 - Ⅰ.活動報告
 - (1)地域における医師不足の状況の把握と分析
 - (2)医師修学資金貸与医師、地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
 - (3)地域と都市部の医療機関を循環して勤務できるシステム作り
 - (4)医師に対する求人・求職等の情報の発信や医学生等からの相談対応
 - (5)県内医療関係機関などとの協力関係の構築
 - Ⅱ.診療
 - Ⅲ.研究
 - Ⅳ.その他

【３】地域医療システム学寄附講座

- 1.年間スケジュール
- 2.スタッフ紹介
- 3.活動概要
 - Ⅰ.教育
 - (1)医学部カリキュラム
 - (2)地域医療ゼミ
 - (3)講演会
 - (4)夏季学生地域医療特別実習
 - Ⅱ.診療
 - Ⅲ.研究
 - Ⅳ.その他

【４】地域医療実践教育玉名拠点

- 1.年間スケジュール
- 2.スタッフ紹介
- 3.活動概要
 - Ⅰ.教育
 - (1)特別臨床実習(5・6年生)
 - (2)初期臨床研修
 - (3)専攻医研修
 - (4)講演会
 - Ⅱ.診療
 - Ⅲ.研究
 - Ⅳ.その他

別添資料 平成27年度学生レポート

あとがき

はじめに

1

熊本県地域医療支援機構理事長挨拶



水田 博志
熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学医学部附属病院 病院長

皆様方には、熊本県地域医療支援機構および地域医療システム学寄附講座の取り組みに対して、平素より多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、平成27年度の熊本県地域医療支援機構および地域医療システム学寄附講座の活動について報告書を作成いたしましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

熊本県内の医師の地域偏在に対しては、各関係機関で様々な取り組みが行われていますが、依然として厳しい状況にあり、本院では、熊本県との連携のもと、医師不足が続く地域医療の支援に積極的に取り組んでいます。平成25年に創設された熊本県地域医療支援機構、および本院内に設置された地域医療支援センターでは、医師のキャリア形成支援と一体化して地方の医師確保支援を行う熊本型医師地域循環システムの構築を目指した様々な制度整備が図られており、また昨年4月に初年度の貸与学生が卒業した熊本県医師修学資金貸与制度についても、知事が指定する病院等で勤務する義務年限内に専門医資格取得ができるキャリアビジョンの検討が進められています。一方、昨年4月には、公立玉名中央病院に地域医療実践教育拠点が設置されました。本拠点は、地域医療システム学寄附講座の教員が病院に常駐して総合診療科の診療を行いながら、医学部学生に対する地域医療の教育と卒後の総合診療専門医の養成を行うもので、地域における医師不足の解消と地域医療や総合診療を志す医師の育成に寄与するものとして期待されています。

ご承知のように、少子超高齢社会に対応可能な医療・介護サービス提供体制の再構築をめざして地域医療構想の策定などが急速に進められており、また、平成29年度から施行予定の新専門医制度についても、各診療科で研修プログラムの作成が進められています。これらによって今後の地域医療の状況が大きく変化していく可能性もあり、その状況を見守りつつ、望ましい熊本の地域医療を目指して取り組んでいく必要があると考えています。

熊本県と公立玉名中央病院企業団からの寄附講座である地域医療システム学寄附講座は平成27年度で終了いたしますが、関係各機関のご理解により、平成28年度からは地域医療・総合診療実践学寄附講座として新たにスタートすることになりました。

本院では、今後も引き続き、熊本県、市町村、医師会、連携病院など関係機関との連携を強化しながら、熊本の医療体制のさらなる充実をめざして努力をしてまいりますので、皆様方のなご一層のご支援とご協力をよろしくお願い致します。



松井 邦彦

熊本大学医学部附属病院
地域医療システム学寄附講座
特任教授

平素は私たち、熊本大学医学部附属病院 地域医療支援機構/地域医療システム学寄附講座へ格別のご支援、ご指導を賜り、御礼申し上げます。

平成27年度の活動報告書をお送りいたします。

地域医療システム学寄附講座を包括する組織として地域医療支援機構が設置され、新体制となった2年目の活動が終了いたしました。さまざまなことがあった、この一年を振り返ってみたいと思います。

平成27年春に、県修学資金貸与制度の第一期生である熊大生3名が卒業され、無事、医師国家試験に合格されました。医師としての第一歩である臨床研修を、県内の病院で受けられています。彼/彼女らは、平成29年度から始まる新たな専門医制度の第一期生でもあります。将来、何れかの専門医資格を修得していただくことは、重要な課題ですが、熊大病院各診療科や県内各施設のご協力を頂き、具体的なキャリアプランが作られつつあります。その上で、近い将来、県内の各施設での活躍が期待されています。

県修学資金貸与の熊大生と県出身の自治医大生を主な対象とした、毎年夏の地域医療特別実習ですが、本年度は県北の玉名、荒尾、および山鹿地区で、二泊三日のスケジュールで開催しました。玉名郡市医師会長の平山晴章先生や荒尾市医師会長の藤瀬隆司先生をはじめ、たくさんの先生方にお世話になり、無事終了することが出来ました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。学生たちにとって、地域医療の実情を知り、地域との交流を深めることが出来る、重要な機会となっています。

また新たな大きな事業として、公立玉名中央病院のご協力を得て同院内に地域医療システム学寄附講座の分室として、地域医療実践教育玉名拠点を設置することが出来ました。これにより地域に密着した形での、特に総合診療に関する教育が、学生から研修医、専門研修医に至るまで、可能になりました。学外に教育拠点を設置することは、熊本大学および熊本県では初めての試みであり、教育を主眼に置いた上で医師不足の問題解決に貢献する一つの方略として、大きな期待が寄せられています。

地域医療システム学寄附講座は、この大学病院外の教育拠点という新たなシステム作りを最後の成果とし、本年度をもって計7年間でその役目を終了することになりました。これまで当寄附講座の運営にご協力いただいた関係の先生方には、心より感謝申し上げます。来年度より、地域医療・総合診療実践学寄附講座と名前を変え、そのミッションを、地域医療の問題への取り組みと総合診療専門医の育成に焦点を当て、新たなスタートを切る予定です。

未だ医師不足をはじめとした、県内の地域医療の問題解決には程遠いのが実情です。しかしながら、少しずつではありますが着実に前進しているものと考えています。今後とも私たちの機構/寄附講座へますますのご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

熊本県地域医療支援機構(地域医療支援センター)

1

年間スケジュール

2015

4

- 8日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 22日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

5

- 13日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 19日 評議員会
- 20日 学生面談
- 22日 熊本県医師会男女共同参画委員会
- 25日 学生面談
- 26日 学生面談 評議員会
- 27日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 29日 学生面談

6

- 1日 学生面談
- 3日 学生面談
- 4日 学生面談
- 10日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 16日 平成27年度第1回熊本県地域医療支援機構講演会
- 24日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

7

- 6日 熊本県医師修学資金説明会
- 8日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 15日 男女共同参画推進委員会
- 22日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

8

- 5日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 7日 オープンキャンパスでの熊本県医師修学資金説明会
- 17日-19日 夏季学生地域医療特別実習
- 26日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

9

- 1日 女性医師キャリア支援センター運営協議会
- 16日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 24日 熊本県医師修学資金貸与学生キャリア形成支援の説明会
- 25日 地域医療研修連絡調整部会
- 30日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

10

- 7日 熊本県地域医療支援機構理事会

11

- 5日 医学生・研修医をサポートするための会セミナー
- 18日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 24日 平成27年度第2回熊本県地域医療支援機構講演会、理事会 及び 評議員会

12

- 9日 地域医療実践教育玉名拠点講演会
- 11日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 18日 平成27年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー
- 22日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

2016

1

- 6日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 20日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会

2

- 9日-11日 天草市立御所浦診療所での実習の視察
- 17日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 22日 地域医療研修連絡調整部会

3

- 2日 熊本県地域医療支援機構担当者連絡会
- 9日 水俣市立総合医療センターでの実習の視察
- 14日 熊本県地域医療支援機構理事会

2

スタッフ紹介

■松井 邦彦 特任教授(センター長)(総合診療)

■谷口 純一 特任准教授(副センター長)(総合診療)

■後藤 理英子 特任助教(代謝内科)

■藤原 志保 特任助教(血液内科)

■柚原 敬三 コーディネーター

■坂田 正充 コーディネーター

■宮前 志穂 事務補佐員

■中川 実咲 事務補佐員

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学医学部附属病院が協力して機構の運営を行っています。機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

【主な取り組み】

- 1) 地域における医師不足の状況の把握と分析
- 2) 医師修学資金貸与医師、地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- 3) 地域と都市部の医療機関を循環して勤務できるシステムづくり
- 4) 医師に関する求人、求職等の情報の発信や医師、医学生等からの相談対応
- 5) 県内医療関係機関等との協力関係の構築

【本年度の活動概要】

地域医療支援機構(地域医療支援センター)は、県医療政策課と、およそ2週間に1度の定例の「熊本県地域医療支援機構担当者連絡会」を開催し、上記の主な取り組みの各項目に関し、協議を重ねてきました。また、これらの定例の連絡会とは別に、必要に応じ、さらに議論を行ってまいりました。それらを機構理事会並びに機構評議員会にご報告・ご審議頂き、取り組みを進めています。以下は、これらの協議等からの本年度機構が行っている活動概要です。

昨年度末に行った「地域における医師不足の調査」をまとめ、報告書を作成しました。これは5年ほど前に地域医療システム学寄付講座が行った調査の追跡調査と新たな項目を調査しています。結果としては、より地域格差が深刻化し、特に地域で「プライマリケア医」のニーズが高まったと分析できます。

また、本年度から医師修学資金貸与学生が卒業し、今後、医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援に関し、関係各方面と様々な意見交換を行い、県と協働して、支援案を策定中です。

地域と都市を循環して勤務できるシステム作りに関しても、医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援と連動して行う方を検討中です。県が指定する義務年限内の勤務先病院を調整し、県とともにその循環案を提案しています。また、「地域医療研修連絡調整部会」を今年度も開催し、地域の病院での研修システムに関し、複数の病院関係者らと協議しました。特に、大学の「総合診療専門医」のプログラムは、県が指定するほとんどの病院を研修協力病院とし、全県下プログラムとして構成することを目指しています。これは2017年度の新しい専門医制度においてもその様なプログラムでの申請を行っている最中です。

医師に対する情報発信等は、男女共同参画関連の活動を進め、クローバーの会を結成したり、病児保育設置の働きかけ等を行っています。次年度からは、「熊本県女性医師キャリア支援センター」事業を市医師会から地域医療支援センターに本格的に業務委託の予定で、さらなる活動を行うこととなります。また、地域医療の現状を周知する目的で、今年度から「メルマガ」の配信を開始しました。

県内医療関係機関等との協力関係の構築は、機構で、地域の医療機関の代表者などで構成される評議員会議を開催したほか研修制度などを現在検討中です。

主な取り組みの詳細は、次項をご参照ください。

地域医療の現状アンケート調査結果

1. 前回の同アンケート調査から

2009年7月に熊本県内全有床病院216施設にアンケート用紙を郵送し、167施設(77.3%)より回答を得ました。熊本県地域医療の現状を検討するにあたり、特に、自治体病院の医師不足、医師の地域偏在、増員を求められる診療科の分布、病院として増員を希望する医師の数、病院に臨まれる医師像、医師不足以外の問題点について解析しました。結果、問題点をまとめると、以下の3点になると思われます。

- 自治体病院における医師減少の推測要因
 - ・当直業務において救急患者への対応による疲弊
 - ・女性医師が就労しにくい勤務環境の存在
- 熊本市近郊への医師集中
- 医師不足の病院が県全体で59.9%も存在する。



2. 結果

この事象を受け、2014年度、熊本県内全有床病院214施設にアンケート用紙を郵送し、176施設(82.2%)より回答を得ました。5年の時間を経て、追跡調査を行った結果、県全体で医師数を見ると、それは増加傾向に転じていますが、自治体病院におけるそれは、更に減少しており、事態は更に深刻化していることが分かりました。

自治体病院における医師減少の推測要因について、2009年度に推測した「当直業務において救急患者への対応による疲弊」に関して、医師不足地域(菊池・阿蘇・球磨・芦北)での医師の勤務環境(常勤医の1ヶ月平均当直日数、一日平均救急外来受診者数・救急車受入れ台数)を調査しましたが、必ずしも医師不足との直接的な因果関連は認められず、各年齢層の女性医師数は30代から40代にかけて、自治体病院での女性医師は半減することも分かりました。また、医師の熊本県内における偏在については、熊本市への一極集中が5年前のそれと比較して更に顕著化しているのが判明しました。

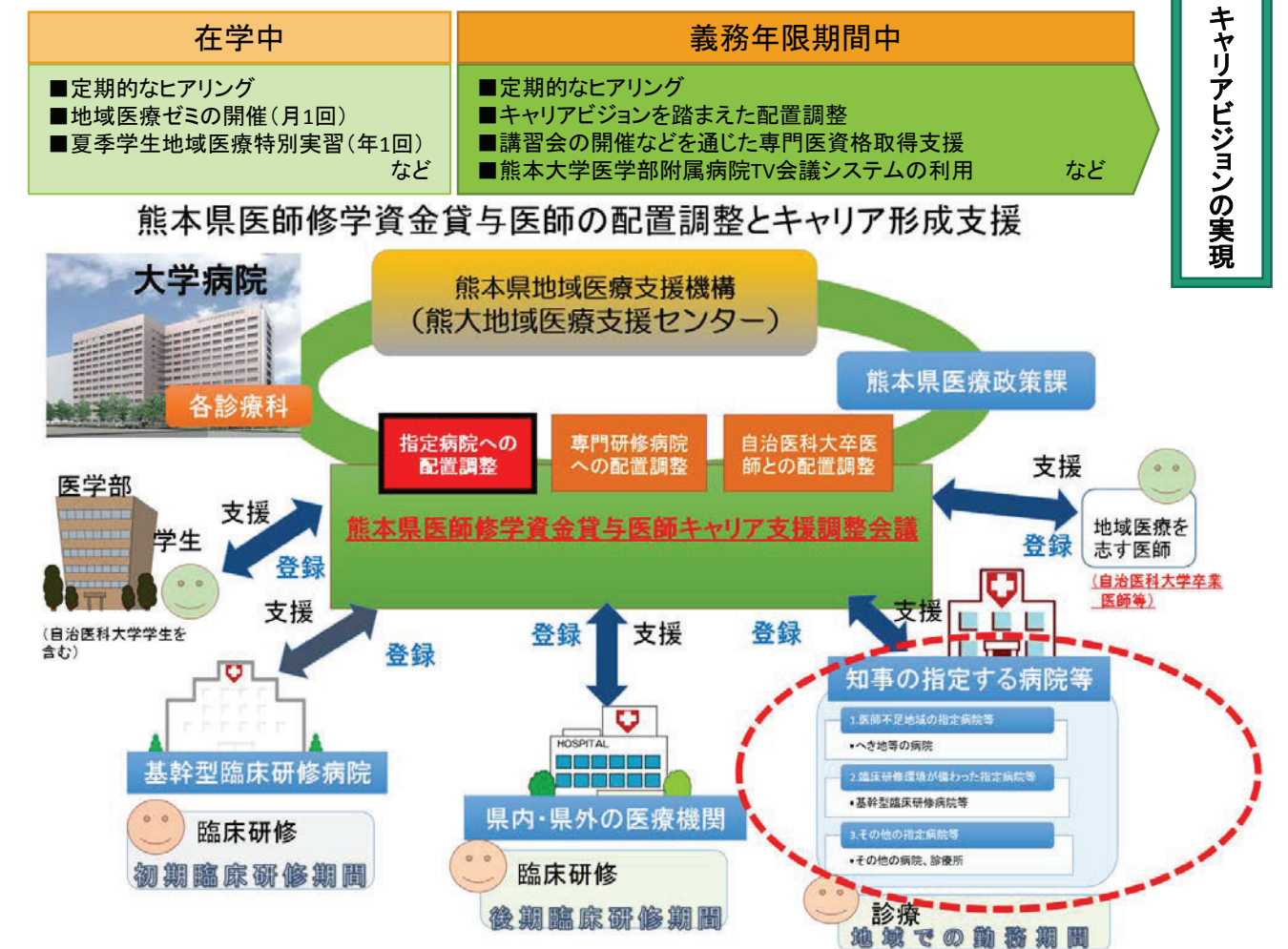
以上の結果を踏まえ、熊本県では地域に貢献できる医師は地域で育成することを念頭に、2015年4月に公立玉名中央病院(上記有明医療圏)に新しく「地域医療実践教育玉名拠点」及び「総合診療科」を設置しました。近い将来、熊本県における医師不足解消の為の足掛かりにすることが期待されます。

なお、詳細な結果は「地域医療の現状アンケート調査結果報告書」を参照してください。

キャリア形成支援

熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について、地域の医師確保や新しい専門医制度を踏まえたルール作りを検討しました。

これまで、在学生については、地域医療ゼミや夏季実習等で地域医療に関する学習の機会を設けられていました。しかし卒業後、地域での医療に従事しながら専門医の資格を取るなどのキャリア形成をどう支援するかについては、これまで制度がありませんでした。そのため、学生も含め卒業した医師の支援策について、熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議や登録制度等について検討しました。



平成27年12月18日(金)、熊本市医師会館において「働きやすい環境づくりを目指して」をテーマに熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナーを開催しました。今回は、熊本県地域医療支援機構と熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会が主催協力し、熊本県医師会と熊本市医師会にも共催頂きました。

当日は、講師として、国立病院機構熊本医療センター院長河野文夫先生、九州大学大学院医学研究院保健学部門教授樗木晶子先生をお招きしました。河野先生からは、熊本における男女共同参画推進活動クローバーの会の説明や熊本医療センターにおける病児保育・イクメンなどの先導的な取り組みについてのお話がありました。樗木先生からは、世界や日本における女性医師の歴史や現状についての考察や九州大学病院における「きらめきプロジェクト」の立ち上げ、成果まで詳しく紹介していただきました。病院経営を見据えた先導的な取り組みを知ることができ、今後は非熊本県でも取り入れていきたいと感じました。

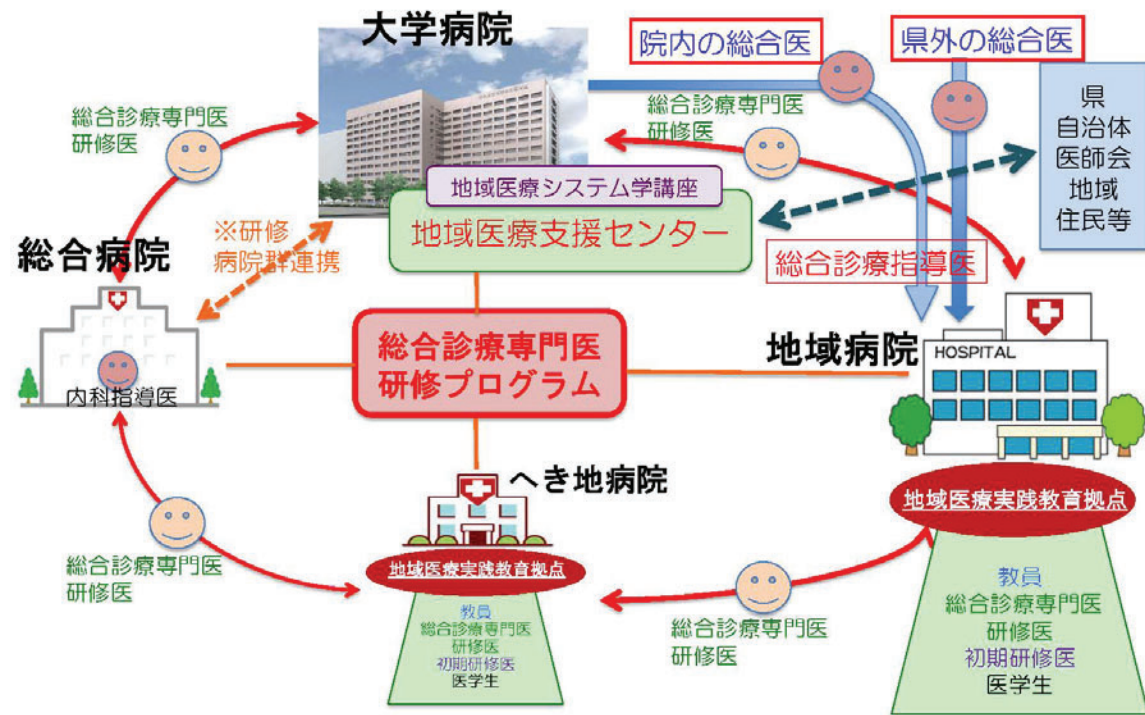
最後は総合討論のコーナーでは、熊本大学医学部附属病院皮膚科の米満文先生、同病院薬剤部の中嶋梨紗先生から短時間勤務の利用状況等について、熊本市シルバー人材センター城真二事務局長及び会員の大江恵美子様から育児サービス事業について紹介いただきました。

活発な意見交換があり、今後の熊本県における医療人の男女共同参画の方向性を考えるよい機会となりました。

平成27年4月にスタートした医師の循環システムのモデルケースともなる地域医療実践教育玉名拠点に対する支援を行いました。また、この拠点を活用した総合診療医の養成循環システムについて検討しました。

また地域医療の研修システムについて「地域医療研修連絡調整部会」を2回開催し、医師3名を小国公立病院等に派遣決定するとともに専門医制度が始まる中で、これまでの派遣システムの今後のあり方について検討しました。

熊本県での総合診療専門医養成システム の観点からの役割／位置付け



第1回 熊本県地域医療支援機構講演会 『地域医療実践教育玉名拠点の役割』



平成27年6月16日(火) 19:30~21:00

講師：◆高村 昭輝 先生(金沢医科大学医学部医学教育学 講師)
◆北村 大 先生(三重大学医学部附属病院総合診療科 助教)

平成27年6月16日(火)、公立玉名中央病院において熊本県地域医療支援機構講演会「地域医療実践教育玉名拠点の役割」を開催しました。

当機構では、年2回、講演会の開催を予定していますが、その内1回を熊本県内の地域で実施することとし、今般、玉名郡市医師会及び公立玉名中央病院の協力を得て、開催が実現したものです。当日は、講師として、金沢医科大学医学部医学教育学講師 高村昭輝先生と三重大学医学部附属病院総合診療科助教 北村 大先生をお招きし、それぞれ両先生が携わってこられた診療・教育活動の貴重な体験談を基に玉名拠点に求められる役割を懇切・丁寧に説明されました。

また、地域医療実践教育玉名拠点に所属する田宮貞宏先生に、何故玉名に設置するのか、その概要やメリット、今後についての説明をしていただきました。

午後7時30分からと遅い開始時間にもかかわらず、会場に詰めかけた参加者は、医師、看護師及び医療関係者およそ100人以上となり、終了予定時刻が過ぎるまで熱心な、質問・意見が寄せられました。

最後に玉名郡市医師会長の平山 晴章先生から、玉名地域の医療発展のため、玉名実践教育拠点を支援していきたいとの意思表示がありました。

地域医療支援機構ホームページでの求人情報発信、相談窓口の設置、ホームページでの行事のお知らせなど、随時情報の提供、相談等の対応を行いました。

更に、①熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで、理解と協力を求める、②県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す、③みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図ることを目的に、以下のとおりメールマガジンによる情報発信をスタートさせました。

(対象)

熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
県内自治体(市町村)の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等

(発行回数)

随時(第1回発信28年3月、公的・医師会立病院アンケート結果)



熊本県地域医療支援機構
ホームページ

・ 評議員会の開催

地域の医療関係者の合意のもと地域医療支援機構の業務を進めていくため、地域の医療機関の代表者などで構成される評議員会を2回開催しました。

2015年11月24日 評議員会



・ 支援機構リーフレットの作成

支援機構の取り組み等について、最新の情報を挿入したリーフレットを作成し、関係機関等に配布し周知を図るとともに理解を深めました。



・ 新しい研修受け入れ制度の検討

地域医療に従事する医師が地域医療支援機構の業務に従事する機会を提供し、地域医療に対するモチベーションの向上と医療技術のスキルアップを図るための研修制度について、地域の医療機関にアンケートを実施しました。

Ⅱ

診 療

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療、各教員のそれぞれの専門診療科外来診療等も一部担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」を立ち上げ、外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。（詳細は地域医療実践教育玉名拠点の診療の項目を参照してください。）

その他の学外においては、各教員が、複数の地域の医療施設にて、非常勤での診療支援活動を行いました。

大学病院				
総合診療外来				
月	火	水	木	金
谷口	松井		谷口	松井
救急外来				
谷口	月3～4回	日勤及び夜勤		
学外支援				
松井	週1回	小国公立病院		
谷口	週1回	上天草総合病院		

Ⅲ

研 究

谷 口 純 一 特 任 准 教 授

【学会発表】

- ◆第33回 臨床研修研究会 //2015年4月18日
『熊本県における地域医療研修に関する意識調査とこれからの取り組み』
- ◆日本医学教育学会 //2015年7月25日
『地域における臨床教育体制構築の検討』
- ◆第9回熊本県医療・保健・福祉連携学会 パネルディスカッション //2016年2月14日
『「超少子高齢社会に向けた地域の取組み」～プライマリケアの視点から～』

後 藤 理 英 子 特 任 助 教

【学会発表】

- ◆ADA 75th Scientific Sessions //2015年6月6日
『Aldosterone excess state causes a chronic inflammation in the pancreatic islet』
- ◆日本糖尿病学会 九州地方会 第53回九州地方会 //2015年11月27日
『原発性アルドステロン症患者にエブレレノンを投与すると活性化GLP-1濃度が上昇する』

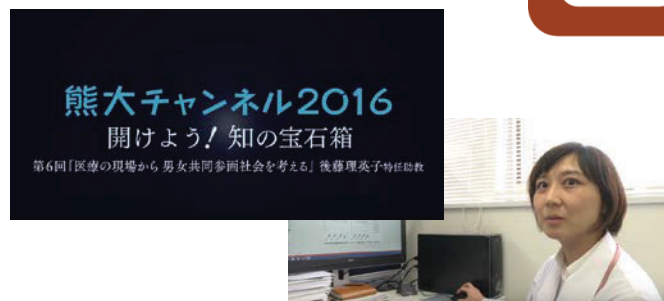
Ⅳ

そ の 他

テレビ特集：各テレビ局より

平成28年1月30日 KABの熊大チャンネル2016で男女共同参画についての特集が放送されました。こちらから動画を見ることができます。

<http://www.kab.co.jp/kumadai2016/backnumber/06/>



松 井 邦 彦 特 任 教 授

【診療支援 その他】

- ・週に一度小国公立病院で診療支援を行う
- ・熊本県地域医療支援機構理事を委嘱
- ・熊本県医療対策協議会委員を委嘱
- ・医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系OSCE事後評価解析小委員会委員 課題改定専門部会委員 学習・評価項目改定専門部会委員
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加

谷 口 純 一 特 任 准 教 授

【診療支援 その他】

- ・週に一度上天草総合病院にて診療支援を行う
- ・医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系CBT実施小委員会ブラッシュアップ専門部会委員
- ・医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系OSCE事後評価解析小委員会委員 課題改定専門部会委員 学習・評価項目改定専門部会委員
- ・九州大学医学部非常勤講師
- ・熊本県消防学校非常勤講師
- ・日本プライマリ・ケア連合学会 代議員
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加
- ・2016年2月9日～11日 天草市立御所浦診療所実習の視察を行う
- ・2016年3月7日～3月11日 COC事業「早期臨床体験実習Ⅲ」を実施
- ・2016年3月9日 ・2016年2月9日～11日 水俣市立総合医療センター実習の視察を行う

後 藤 理 英 子 特 任 助 教

【診療支援 その他】

- ・熊本県医師会男女参画委員会委員を委嘱
- ・熊本大学医学部附属病院男女共同参画委員を委嘱
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加
- ・2015年10月21日 熊本大学医学部附属病院男女共同参画コーディネータの会の進行を担当
- ・2015年11月5日 平成27年度医学生、研修医などをサポートするための会の司会を担当
- ・2015年11月21日 臨床研究計画書作成ワークショップ 九州ブロック に参加
- ・2015年12月18日 平成27年度熊本県医療人キャリアサポート クローバーセミナーの司会を担当
- ・2016年3月12日 2020.30実現を目指す地区懇談会～クローバーの会～の世話人を担当

【この1年を振り返って】

平成26年9月より主に医師の男女共同参画を担当することになって一年が過ぎ、今年度は担うべき仕事の方向性が見えてきた年でした。

昨年度より組織した熊本県医療人キャリアサポート クローバーの会（熊本県地域医療支援機構、熊本県医師会、熊本市医師会、熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会で構成）で協力して各種セミナーなどを実施、さらに各臨床科医局や、県内の病院の男女共同参画を担う先生方との連携を広げることもできました。

また、熊本県内の公的病院・医師会立病院にご協力いただき、ご勤務中の男女全医師を対象に、熊本県における医師の現状と必要な支援についてアンケート調査し、結果を冊子「CLOVER」にまとめました。調査の結果、男性女性ともに復職支援・離職抑制のために必要と考える支援に「上司・同僚の理解」「短時間勤務制度」「院内保育」が挙がりました。また子育て中の女性からは「病児保育」が上位に挙がり、男性からは「適正な仕事量」が挙がりました。

熊本県でも女性医師の割合は年々増えてきており、25歳から29歳では38%を占めています。今後いかに女性医師が働きやすい環境を整えていくか考えていくことは、男性も含め医師全体の労働環境を改善することにつながると思っています。

また、今年度から新たに医学生講義に「男女共同参画、ワークライフバランス、キャリア形成」を取り入れ、若い世代から将来の働き方について考える指導の必要性を改めて感じています。

今後も熊本県の医師の真の男女共同参画を目指して、初心を忘れず活動して参りたいと思います。

最後に、私たちの活動をサポートしてくださっているすべての皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



地域医療システム学寄附講座

1 年間スケジュール

2015

4

- ・6日-24日 6年生特別臨床実習 第3ターム
- ・15日 地域医療ゼミ
- ・24日 特別臨床実習報告会
- ・25日 熊本県地域医療支援機構勉強会
第5回九州地域医療研究会in熊本

10

- ・22日 地域医療ゼミ

5

- ・1日 オンラインツール「今日の臨床サポート」
「ProceduresConsult」の利用開始
- ・11日-29日 6年生特別臨床実習 第4ターム
- ・14日 地域医療ゼミ
- ・29日 特別臨床実習報告会

11

- ・5日 地域医療ゼミ
(医学生・研修医をサポートするための会セミナー)

6

- ・1日-19日 6年生特別臨床実習 第5ターム
- ・5日 第5回地域医療・総合診療グランドラウンド
- ・18日 地域医療ゼミ
- ・19日 特別臨床実習報告会
- ・22日-7月10日 6年生特別臨床実習 第6ターム

12

- ・10日 後期研修プログラム説明会
- ・11日 特別臨床実習の説明会(1・2ターム)
- ・18日 地域医療ゼミ

2016

7

- ・10日 特別臨床実習報告会
- ・16日 地域医療ゼミ

1

- ・12日-29日 5年生特別臨床実習 第1ターム
- ・29日 特別臨床実習報告会
地域医療ゼミ
第6回地域医療・総合診療グランドラウンド

8

- ・13日 地域医療ゼミ
- ・17日-19日 夏季学生地域医療特別実習

2

- ・1日-19日 5年生特別臨床実習 第2ターム
- ・18日 地域医療ゼミ
- ・19日 特別臨床実習報告会
- ・28日 特別臨床実習振り返り検討会

9

- ・24日 地域医療ゼミ

3

- ・7日-11日 早期臨床体験実習Ⅲのパイロット実習
- ・24日 地域医療ゼミ

2

スタッフ紹介

■松井 邦彦 特任教授(総合診療)

■西山 功一 特任講師(循環器内科)

■緒方 亜紀 特任助教(皮膚科)

■田中 響 特任助教(神経精神科)

■久保 清美 事務補佐員

3

活動概要

【教育】

地域医療支援センターの教員らと共同で、医学部の授業を1年生の「医学概論」、2年生の「医学英語」、3年生の「公衆衛生」、4年生の「医療と社会」等の授業の一部を委託されて、担当しました。また、4年生の「総合診療部」の授業を主担当し、実施しました。さらに、4年生の「臨床実習入門」、「チュートリアル」の授業も一部を委託されて、担当しました。5～6年生の「特別臨床実習入門(クリニカル・クラークシップ)」では、「地域医療実習」を主で担当し、今年度は、実習先、実習期間、実習定員等すべて拡充して実施しました。特に玉名教育拠点にては、最も集約的に臨床実習を実施しました。また、一部救急・総合診療部の「特別臨床実習入門(クリニカル・クラークシップ)」も委託されて担当しました。

以上の正規のカリキュラムの授業以外に、「夏季学生地域医療特別実習」を主として地域枠入学生および県修学資金貸与生と自治医大学生を対象に行いました。また、同様に主として地域枠入学生および県修学資金貸与生を対象に、概ね月1回、定期的に行いました。

初期研修では、大学病院の臨床研修プログラムで、選択での「総合診療科」の研修希望者を受け、玉名教育拠点、および大学で研修の指導を行いました。

後期研修では、今年度から新しく、プライマリ・ケア連合学会の後期研修に認定され、「熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム」として実施し、初年度は2名の専攻医が研修を開始しました。主に玉名教育拠点にて研修を実施しました。

上記以外にも、「総合診療・地域医療グランドラウンド」を外部講師を招聘し講演会を開催したり、関連の講習会を実施しました。

【診療】

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療、各教員のそれぞれの専門診療科外来診療等も一部担当しました。

玉名教育拠点では、「総合診療科」を立ち上げ、外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。

その他の学外においては、各教員が、複数の地域の医療施設にて、非常勤での診療支援活動を行いました。

【研究】

複数の学会等に、地域医療・総合診療関連の発表を行いました。また、各教員の専門性に応じた、学会発表や論文作成を行いました。

【その他】

各教員が、それぞれの個別で従来から行っていた外部の公的・社会的な医学教育関連活動、学術的活動、医療政策関連の活動等を継続して行いました。また、新たに委託された諸活動も行いました。



医学概論 担当：谷口、後藤

回	実施日	時限	内容
11	6月22日(月)	4	コミュニケーション
12	6月29日(月)	4	プロフェッショナルリズム・医師道とは
13	7月6日(月)	4	男女共同参画
14	7月13日(月)	4	喫煙と社会

平成27年度は「喫煙と社会」のテーマでの授業に加え、新たに「コミュニケーション」「プロフェッショナルリズム・医師道とは」「男女共同参画」のテーマも増え、4コマの授業を担当しました。

早期臨床体験実習Ⅰ 担当：松井、谷口

回	実施日	時限	内容
1～4	9月14日(月)	1～4	オリエンテーション、スモールグループディスカッション、学外指導施設見学など
5～8	9月15日(火)	1～4	保険・医療・福祉の臨床体験実習
9～12	9月16日(水)	1～4	保険・医療・福祉の臨床体験実習
13～16	9月17日(木)	1～4	保険・医療・福祉の臨床体験実習
17～20	9月18日(金)	1～4	保険・医療・福祉の臨床体験実習
21,22	9月29日(火)	3,4	報告会
23,24	10月6日(火)	3,4	報告会

これまで「早期社会体験実習」としていた1年生を対象とする実習を、平成27年度から「早期臨床体験実習Ⅰ」と名称を変え実施しました。

平成26年度と同様に1週間の老健施設、障がい児施設、療養型臨床施設、等の福祉施設における体験実習を行いました。

早期臨床体験実習Ⅱ 担当：松井、谷口

回	実施日	時限	内容
1	8月24日(月)		各診療科・各部署での臨床体験実習
2	8月25日(火)		各診療科・各部署での臨床体験実習
3	8月26日(水)		各診療科・各部署での臨床体験実習
4	8月27日(木)		各診療科・各部署での臨床体験実習
5	8月28日(金)		各診療科・各部署での臨床体験実習

平成27年度から新たに2年生を対象に「早期臨床体験実習Ⅱ」を実施しました。実習Ⅰ(1年生)、実習Ⅲ(3年生)の中間に位置し、学生が初めて医療の現場に触れる体験実習となっています。

医学英語 担当：谷口、小山

回	実施日	時限	内容
26	12月9日(水)	2	テーマ：医療面接
27	12月16日(水)	2	テーマ：臨床医学
28	1月13日(水)	2	テーマ：行動科学関係
29	1月27日(水)	2	テーマ：プロフェッショナルリズム
30	2月3日(水)	2	テーマ：臨床推論

平成27年度より、医学英語の5コマを担当することとなり、「医療面接」「臨床医学」「行動科学関係」「プロフェッショナルリズム」「臨床推論」をテーマとした英文や英語での映像を用いるなどして授業を実施しました。

公衆衛生学 担当：松井、谷口、田宮、小山

回	実施日	時限	内容
9	4月17日(金)	3	疫学総論
10	4月17日(金)	4	EBM
15	4月27日(月)	3	スクリーニング
18	4月30日(木)	3	疫学
19	5月1日(金)	3	疫学演習
20	5月1日(金)	4	地域医療
36	6月1日(月)	3	地域保健① 地域医療概論
37	6月1日(月)	4	地域保健② 地域医療行政
41	6月8日(月)	3	地域保健③ 医療の実際と機能・チーム医療
48	6月18日(木)	2	地域保健⑤ 総合診療とは
51	6月22日(月)	4	地域保健⑥ 地域医療およびへき地医療の実際と在宅医療・多職種連携
52	6月22日(月)	4	災害医療および救急医療、等

平成27年度より、公衆衛生学の授業で地域の医療をテーマとした授業などを担当しました。

51回は、安成医院の安成先生、県庁の仲本先生をお招きし、「地域医療およびへき地医療の実際と在宅医療・多職種連携」の授業を行いました。

医療と社会 担当：後藤

回	実施日	時限	内容
2	7月14日(火)	4	地域保健活動(2) 医師における男女共同参画とワークライフバランス

平成27年度より新たに「男女共同参画」をテーマとした1コマの授業を担当しました。

総合診療学 担当：松井、谷口

回	実施日	時限	内容
1	4月17日(金)		臨床入門導入
2	4月22日(水)		診療所などでの実習
3	4月22日(水)		診療所などでの実習
4	4月24日(金)		臨床入門導入2
5	5月15日(金)		医療のプロセスと医療面接総論
6	5月22日(金)		医療面接各論
7	5月29日(金)		臨床推論の考え方
8	6月5日(金)		医療プロフェッショナルリズム

平成27年度より地域医療システム学寄附講座の教員が担当しました。

8回目は、野村先生(杏林大学医学部総合医療学教室 教授)をお招きして、「医療プロフェッショナルリズム」の授業をしていただきました。

チュートリアル実習 担当：谷口

回	実施日	時限	内容
1			第1週チュートリアル
2			第2週チュートリアル

平成26年度と同様に新しいシナリオも作成し、授業や実習を行いました。

臨床実習入門 担当：松井、谷口、後藤

回	実施日	時限	内容
1			臨床実習入門

平成26度と同様に「医療面接」などの授業及び実習の一部を担当しました。

臨床実習 担当：谷口

回	実施日	時限	内容
1			臨床実習

28週間の臨床実習(1週間×28診療科等)において救急外来での実習指導を担当しました。

特別臨床実習 担当：松井、谷口、田宮、小山、後藤

回	実施日	時限	内容
1			特別臨床実習

特別臨床実習は、医学科カリキュラムの中で、大学病院における臨床実習後の5年生終盤から6年生中盤にかけ、3週間を1タームとし、全7ターム(第1・第2タームは5年次、第3～第7タームは6年次)にわたって実施されるプログラムです。学生は各診療科から提供されるプログラムの中から、タームごとに診療科を選択し実習を受けることとなります。

地域医療システム学寄附講座では、地域の公的病院等の協力を得て、「地域医療」実習プログラムを提供しており、従来は協力病院の中から最大3病院を選択して行っていたものを、平成27年の6年生の実習は最大2病院の選択とし、さらに平成28年の5年生の実習では1病院のみとしました。

5年生 (平成28年:2016年)	第1ターム 1/12-1/29	第2ターム 2/1-2/19	平成28年から、本来の目的を達成するために、1ターム(3週間)を1つの病院で実習するプログラムに変更しました。 さらに昨年度から協力していただいている病院の他に、天草市立御所浦診療所、阿蘇医療センター、水俣市立総合医療センター、公立多良木病院の4施設が実習施設として加わりました。 2016年1月12日から29日の第1タームの参加者は6名であり、2016年2月1日から19日の第2タームの参加者は7名でした。
そよう病院	0	0	
小国公立病院	1	1	
上天草市立天草総合病院	0	1	
人吉医療センター	1	1	
公立玉名中央病院	2	1	
天草市立御所浦診療所	0	1	
阿蘇医療センター	0	1	
水俣市立総合医療センター	1	1	
公立多良木病院	1	0	
合計	6	7	

6年生 (平成27年:2015年)	第3ターム 4/6-4/24			第4ターム 5/11-5/29			第5ターム 6/1-6/19			第6ターム 6/22-7/10		
週回数	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
そよう病院	0	0	1	2	2	2	2	2	0	0	0	0
小国公立病院	2	2	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0
上天草市立天草総合病院	1	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0
人吉医療センター	2	1	1	1	1	1	2	0	1	1	1	0
公立玉名中央病院	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0
熊本赤十字病院	0	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	2
合計	6			6			6			2		

平成27年の6年生は、6病院の中から2病院を選んで、2週間と1週間の実習を実施しました。
2015年4月6日から24日の第3タームの参加者は6名、2015年5月11日から5月29日の第4タームの参加者は6名、2015年6月1日から19日の第5タームの参加者は6名、6月22日から7月10日の第6タームの参加者は2名でした。

【オリエンテーション】

日時:2015年4月15日(木)

新1年生と在学生との顔合わせ及び、今年度の活動計画について話し合いを行いました。

【映画鑑賞:ディア・ドクター】

日時:2015年5月14日(木)

山間の小さな村の医者と、彼のもとに研修にやってきた研修医を中心に話が展開されます。内容も魅力的ですが、外来診療の様子や訪問診療の1コマなどをリアルに描いており、観覧していた学生も過疎地域での診療をイメージしやすかったようです。
映画鑑賞の後、学年代表の学生が集まり今後のゼミで何をするかなど話し合いました。



【臨床推論】

日時:2015年6月18日(木)

5年生が中心となり、臨床推論を行いました。
「37歳の女性が腹痛で外来に...」
まずはどんな病気が疑われるのか、この患者への質問すべきことは何か、身体所見は...様々なことを話し合いや発表を交えて進めていました。最後には松井先生が解説を行い、臨床推論を終了しました。



【地域医療実践教育玉名拠点の紹介】

日時:2015年7月16日(木)

8月に行われる夏季実習に向けての準備として実習先や実習内容について話し合いなどが行われました。その後、今年設置された地域医療実践教育玉名拠点について小山先生がスライドで紹介をしたり、テレビ取材があった際の映像の上映をしたりしました。



【夏季学生地域医療特別実習】

日時:2015年8月17日～19日

詳細は次項【夏季学生地域医療特別実習】を参照してください。

【夏季学生地域医療特別実習の反省会と
熊本県医師修学資金貸与学生キャリア形成支援の説明会】

日時:2015年9月24日(木)

夏季学生地域医療特別実習直後に提出された学生のアンケートの結果をもとに、満足した点や今後改善すべき点などの報告をし、来年度に向けて詳細なアンケートを取ることにしました。また、現在検討が進められている熊本県医師修学資金貸与学生のキャリア形成支援策について熊本県医療政策課から卒業後のローテーション等の説明が行われました。

【夏季学生地域医療特別実習に関するアンケートの結果報告と
ドクターGの鑑賞(2015年10月15日放送分)】

日時:2015年10月22日(木)

27年度夏季実習についてのアンケートの中間結果を報告しました。また、翌週のドクターGに、これまで夏季実習に参加してきた先輩初期研修医が出演することを受けて、10月15日放送のドクターGを鑑賞しました。



11 【医学生・研修医をサポートするための会セミナー参加】
日時：2015年11月5日（木）

12 【来年度の夏季実習に関するアンケートの結果報告とクローバーセミナー参加】
日時：2015年12月18日（金）

1 【来年度の夏季実習についての話し合いと第6回グランドラウンドへの参加】
日時：2015年1月29日（金）

2 【映像で臨床推論】
日時：2015年2月18日（木）

これまでと趣向を変えて、ドクターGの映像を使い臨床推論を行いました。
6月に行った臨床推論では例文を用いていましたが、今回は映像を使ったことにより、
視覚的にも問題を捉えることができ前回よりもさらに分かりやすかったようです。



3 【1年の振り返り会及び追い出しコンパ】
日時：2015年3月24日（木）
今年度の活動のまとめや卒業する6年生による今までの振り返りなどを予定しています。

3 講演会

第5回 地域医療・総合診療グランドラウンド 『医のプロフェッショナリズムを科学する』



平成27年6月5日（金） 18:00～19:15
講師：野村 英樹 先生（杏林大学医学部総合医療学教室 教授）

平成27年6月5日に第5回総合診療・地域医療グランドラウンドが開催されました。
講師に杏林大学医学部総合医療学教室の野村英樹先生を迎え、「医のプロフェッショナリズムを科学する」を主題としてご講演いただきました。
医師というプロフェッション（専門職集団）が社会（クライアントの共同体）と相互の信頼を築く上で公約（プロフェス）する「質の保証、利他的な奉仕、道徳心、誠実さ、説明責任」のうち、「利他的奉仕」に焦点を当て、脳の作りや実験例から分かりやすく解説していただきました。

第6回 地域医療・総合診療グランドラウンド 『What's the GIM?』『診断困難だった不明熱の1症例』



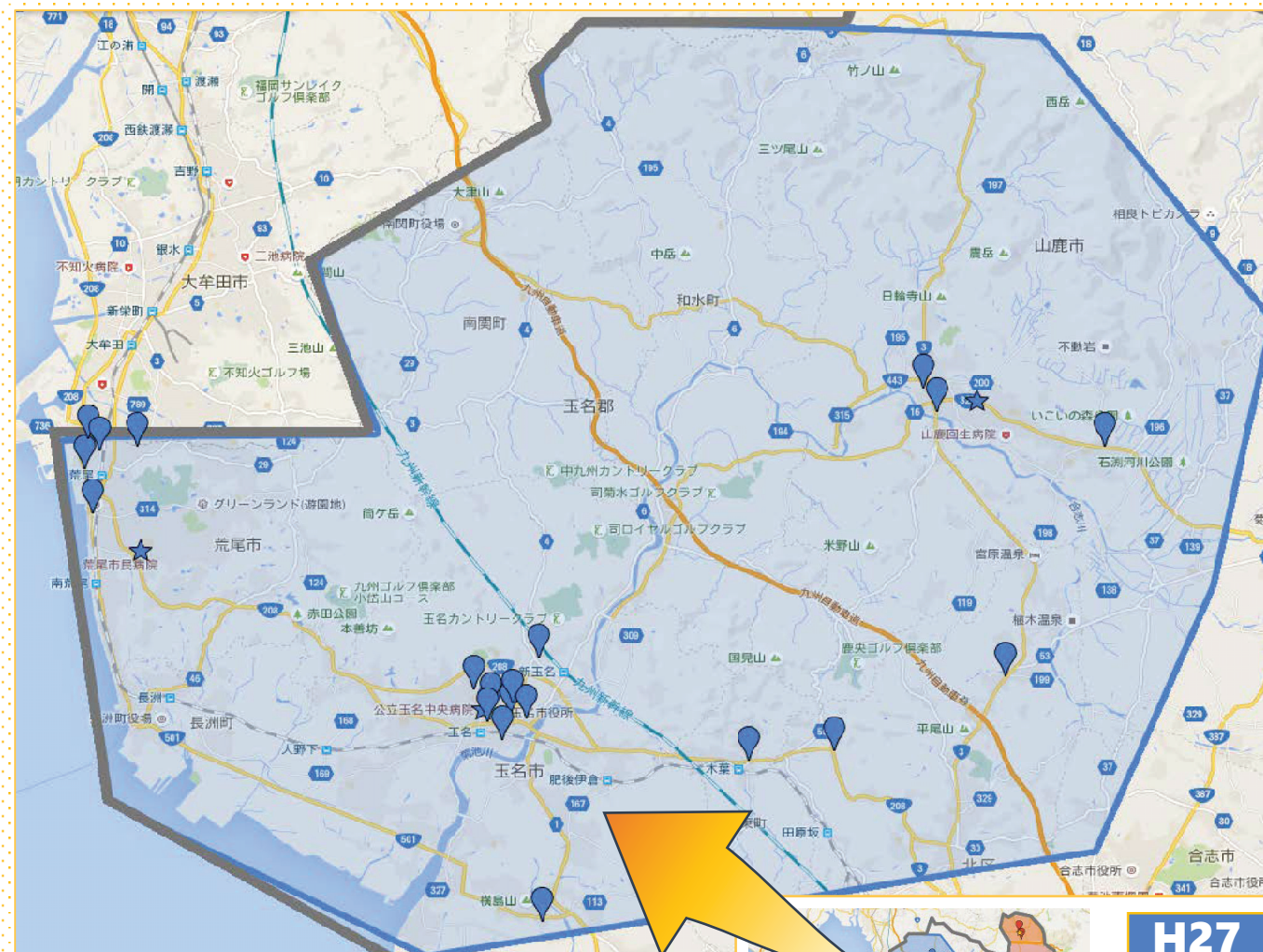
平成28年1月29日（金） 18:30～20:20
講師：清田 雅智先生（飯塚病院総合診療科診療部長）

平成28年1月29日（金）、第6回地域医療総合診療グランドラウンドは『What's the GIM?』と『診断困難だった不明熱の1症例』の2つのテーマで、飯塚病院総合診療科診療部長の清田雅智先生に講義をしていただきました。

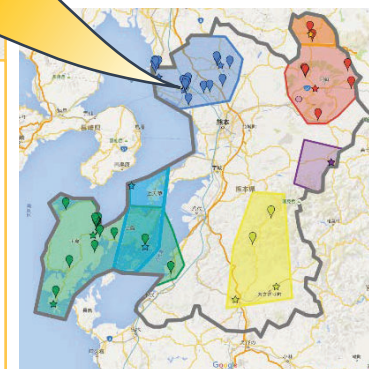
4 夏季学生地域医療特別実習

夏季学生地域医療特別実習は、地域医療システム学寄附講座が設置された平成21年度から始まり、今年で6回目となる本講座最大の行事となっています。
その目的は、本講座の設置と同時にスタートした熊本県医師修学資金貸与制度の受給学生に対し、毎月実施している地域医療ゼミの延長として、フィールドワークにおいて実体験することで、地域医療の抱える問題を自ら学び深く理解してもらうことや地域医療の魅力を発見してもらうことであり、更には、将来地域医療に従事する際に、仲間として密に接することになるであろう、熊本県出身の自治医科大生と友好を育む機会を提供するという意味も持っています。

参加学生が年々増えてきていることや、今年4月に公立玉名中央病院に地域医療実践教育玉名拠点を設置したこともあり、今年度は、玉名郡市医師会、荒尾市医師会、鹿本医師会、公立玉名中央病院、荒尾市民病院及び山鹿市民医療センターの協力を得て有明・鹿本医療圏全体を対象に地域医療実習を実施しました。



関係先一覧：
公立玉名中央病院、玉名地域保健医療センター、
平山耳鼻咽喉科医院、浦田医院、安成医院、安田内科医院、
河野医院、岡本外科医院、まつおクリニック、
ひがし成人・循環器内科クリニック、酒井医院、
荒尾市民病院、田宮医院、伊藤医院、松山医院、
さとう総合内科クリニック、西原クリニック、
山鹿市民医療センター、かもと整形外科医院、
大橋通クリニック、山鹿温泉リハビリテーション病院、
大塚病院、田原坂クリニック



H27
H26
H25
H24
H23
H22
H21

8/17

時間	
8:50	集合
9:00	出発
10:00	公立玉名中央病院 到着 /オリエンテーション
10:30	公立玉名中央病院 中野病院長「動物の進化と骨」
11:00	有明保健所 林田所長 「有明地域の医療の概要」
11:30	田宮先生・小山先生 「地域医療実践教育玉名拠点について」
11:45	古賀先生 「御所浦での診療」
12:00	昼食
13:00	ワールドカフェ イントロダクション
	ラウンド1 「玉名地域の健康にかかわる 問題点は？」
	ラウンド2 「玉名において医療が果たして いる役割は？」
	ラウンド3 「玉名や地域において求められる 医師像は？」
15:10	クロージング
15:25	セッション1 鶴田先生 「地域で求められる医師となる ために」
16:45	セッション2 高柳先生 「Cinemameducation」
17:15	セッション3 小野副知事「地 域医療を支えるために」
18:00	公立玉名中央病院 出発
18:15	ホテル(玉名温泉 ホテルしらさぎ) 到着
19:00	懇親会



8/18 終日実習

時間	玉名グループ(1・2年生)
7:50	ホテル玄関集合
8:15	ホテル 発
8:30	公立玉名中央病院 着 実習
17:00	公立玉名中央病院 発
17:15	ホテル 着
時間	玉名グループ(3・4・5年生)
7:50	ホテル玄関集合
8:00 ～8:15	ホテル 発
8:15 ～8:20	各医師会医院 着 実習
17:00 ～17:15	各医師会医院 発
17:15 ～17:30	ホテル 着

時間	荒尾グループ(1・2年生)
7:35	ホテル玄関集合
7:45	ホテル 発
8:15	荒尾市民病院 着 実習
17:00	荒尾市民病院 発
17:30	ホテル 着
時間	荒尾グループ(3・4・5年生)
7:35	ホテル玄関集合
7:45	ホテル 発
8:15	荒尾市民病院 着 8:15 荒尾市民病院 発 8:20 ～8:35 各医師会医院 着 実習
16:30 ～16:40	各医師会医院 発
16:50	荒尾市民病院 着
17:00	荒尾市民病院 発
17:30	ホテル 着

時間	山鹿グループ(1・2年生)
7:35	ホテル玄関集合
7:45	ホテル 発
8:15	山鹿市民医療センター 着 実習
17:00	山鹿市民医療センター 発
17:30	ホテル 着
時間	山鹿グループ(3・4・5年生)
7:35	ホテル玄関集合
7:45	ホテル 発
8:15	山鹿市民医療センター 着 8:15 山鹿市民医療センター 発 8:20 ～8:35 各医師会医院 着 実習
16:30 ～16:40	各医師会医院 発
16:50	山鹿市民医療センター 着
17:00	山鹿市民医療センター 発
17:30	ホテル 着

1・2年生は 中核病院
【公立玉名中央病院の例】

時間	
8:45	入院病棟回診見学
9:45	外来診療見学
12:00	昼食
13:00	外来診療/手術見学
15:00	入院患者診療・回診
16:00	まとめなど

研修医が入院患者の
診察をする様子を見学外来を担当する研修医にアドバイスを
する指導医の小山先生3・4・5年生は 医院・診療所など
【安成医院の例】

時間	
8:30	オリエンテーション
9:00	外来診療見学
12:00	昼食
13:00	訪問診療 グループホームの訪問
16:00	救急患者対応

【作戦会議室】にて
作戦会議
(オリエンテーション)外来診療の見学と血圧を測るなどの
手伝いを行う

8/19

時間	
7:00	朝食
8:45	ホテル 発
9:00	公立玉名中央病院 着
9:15	発表会 (発表10分討論5分、7グループ)
11:00	各講師による挨拶・講評
11:10	アンケート記入、一言コメント
11:30	解散



以下は各班の発表時のスライドです。

公立玉名中央病院 (1・2年生)

公立玉名中央病院



松原大勇、安倍悠乃、浦川朋也、榎田悠美

公立玉名中央病院概要

- 呼吸器内科
- 神経内科
- 循環器内科
- 糖尿病・内分泌科
- 消化器内科
- 外科・乳腺外科
- 泌尿器科/腎臓内科
- 小児科
- 産婦人科
- 整形外科
- 放射線科
- 麻酔科
- 皮膚科
- 総合診療科**

地域医療実践教育玉名拠点について

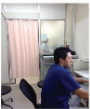
- 平成27年4月に設置
- 大学教員を指導医として地域の医療機関に配置し、学生だけでなく研修医の教育指導を行う。
- 地域医療に関する研究

実習の流れ



総合診療科

- 主訴に関する診察だけでなく、包括的に患者を診療する。
- 患者の付き添いの人からも情報を収集する。
- commonの病気はある程度診る。



手術室

鼠径ヘルニアの患者さん

腰椎麻酔

手術室の感想

- 手術室にBGMが流れていて、好きな曲を流せることに驚いた
- 外科は診察と違って、人の臓器と向き合う所だと感じた
- 医師と看護師の意思疎通が出来ていた
- 器具、布の数を手術前後で確認していた

救急外来

- 総合診療科と掛け持ちして救急外来にあたっていた。
- 素早く状態を判断して適切な処置を行っていた。
- 適切なタイミングで処置を行うことが大切であった。

- アンカリングバイアス



まとめ

- 勉強が必要！！！！
- 新しい地域医療の教育拠点の現場を体験することができた。
- 働いている先生方がかっこいい*

最後に公立玉名中央病院の先生方、看護師の方、スタッフのみなさん本当にありがとうございました



玉名A・Bグループ (3・4・5年生)

玉名郡市医師会A

- 平山耳鼻咽喉科・前田小児科医院
- まつおクリニック
- 岡本外科医院
- 玉名地域保健医療センター
- ひがし成人・循環器内科クリニック
- 熊大5年 的場祐二
- 熊大3年 松下祥大
- 自治5年 小林博
- 熊大3年 内藤貴一
- 自治4年 松森千里

平山耳鼻咽喉科・前田小児科医院(的場)

- 実際に患者さんを診察
- 主訴は、難聴、蓄膿症、中耳炎、顎関節症、味覚異常、めまい、咽頭炎など様々
- 午後3時から、前田小児科医院にて実習させていただく
- 診察の手際の良さ、疾患の多様性
- 地域住民との強いつながり

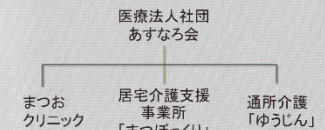
まつおクリニック



医療法人社団あすなろ会
まつおクリニック

外科、胃腸科、肛門科、リハビリテーション

医療法人社団あすなろ会



通所介護「ゆうじん」



岡本外科医院

自治医科大学5年 小林 博

- 岡本外科医院
- 外来、入院病棟、グループホームからなる
- 医師1名、看護師11名、看護助手2名、クラーク3名
- 入院は19床、骨折等の入院が多い
- 外来患者は1日90〜100名程度、整形外科疾患や外傷の患者が多い
- 往診は7件
- 岡本Drの専門は消化器外科であるが、外科(外傷、骨折、腰痛等)にとどまらず内科(高血圧、痛風等)もみている。
- 設備: エコー、消化管内視鏡、レントゲン、理学療法器具

感じたこと

- 医師1人に対して非常に多くの患者が来院され、医師不足を目の当たりにした。
- 看護師をはじめとするコメディカルの支えの重要性を感じた。
- 関節疾患など整形外科領域の地域でのニーズの大きさを学んだ。
- 岡本「外科」医院ではあるがHT、HL、DMなど内科疾患の患者も多く来院され、General Mindを感じた。

ひがし成人・循環器内科クリニック

自治医科大学4年 松森 千里

ひがし成人・循環器内科クリニック

- 医師1名、看護師10名、臨床検査技師8名、管理栄養士2名、コンシェルジュ1名、運動指導士4名
- 院内に栄養相談室を設置
- 料理教室、メディカルフィットネスを行う施設「h'SUPPORT」を併設
- 糖尿病、高血圧患者の初診、定期的なフォローを実施
- 血液検査、心エコー、胸部X線、単純CT、トレッドミル検査、心電図検査眼底検査等の検査を実施
- 【診療内容】
- 内科全般の診療
- 循環器疾患の精査、術前・術後の定期検査
- 高血圧・脂質異常症・糖尿病を中心とした生活習慣病の栄養指導・運動指導・合併症検査及び診療

h'SUPPORT

- #料理教室
- 管理栄養士による指導
- 患者対象: 月2回 一般者対象: 月1回
- 他にも・・・糖尿病教室、書道教室、マッサージセラピーに利用
- #メディカルフィットネス
- 4名の運動指導士
- 会員: 114名(6割が患者)
- 個人の健康状態、相性に合わせた指導を実施
- クリニックでの診断をもとにメニューを作成

学んだこと

- 外科的処置、精査等で他病院に患者を送る際には、できる検査、診断は自院ですべて行う
- ある特定の疾患では、その疾患において信頼できる先生のもとに患者を紹介
- インスリン導入患者に対するクリニカル・パスの利用
- 一患者の長期的なメンタル面の管理や、インスリン離脱といった目標に対する治療意欲の維持

玉名地域保健医療センター



熊本大学医学部1年
内藤 貴一
小森 久海

玉名地域保健医療センターの特徴

開放型病院
かつ
包括的な地域医療施設

開放型病院とは？

病院の施設や機能を、診療所の医師(かかりつけ医)など、病院に勤務する医師以外の医師にも開放

包括的な地域医療

- たまきな荘
- NST

NST

栄養管理をきちんとすると病気が治りやすくなる



NST

NST

NSTとは？

Nutrition Support Team

Dr. RD(管理栄養士)、Ns、薬剤師、検査技師、歯科衛生士などの多職種チーム

NST

世界的に流行っているが、日本は遅れている

NST

摂食・嚥下障害、栄養量・質、運動リハ

Total Management

玉名C・Dグループ (3・4・5年生)

平成27年度
夏季地域医療特別実習
玉名C、D班

木下・篠塚・吉田(梨)
古島・松尾・森口

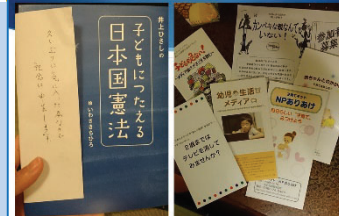
研修先病院

- 木下: 安成医院
- 篠塚: 浦田医院
- 吉田(梨): 河野医院
- 森口: 酒井医院
- 古島: 安田内科医院
- 松尾: 田原坂クリニック

安成医院 (木下)

- 何でも診る医師
- 匙を投げない医師
- 安心、信頼される医師

浦田医院 (篠塚)



浦田医院 (篠塚)

総合診療医は需要に応じて姿を変える。

- 「地域で受けた要望を、地域で実現する」
- 開院23年、初日に似たオーストラリアのPVのような異国3代にわたる医療を実現していた。
- 訪問診療の有用性と、その限界も感じた。
- 例1: 28歳、女性。18歳から交通事故で四肢麻痺。
- 例2: 首が痛くて動かない。整形外科疾患が精神疾患が判別困難。
- 満足できる地域医療を実現するには高度な専門性が必要。
- 総合診療専門医がまだまだ足りない……。
- 解決策 僕が総合診療医になって玉名に求めたい……

河野医院 (吉田)

- 高齢者、再診の方が多い
- 訪問診療
- たまな在宅ネットワーク
- 水銀式血圧計

酒井医院 (森口)

- 午前中外来診療、午後から往診
- 受け持っている住診患者が80人近くいるので、毎月複雑な住診の手配表を作っている
- 訪問診療を行う場所の範囲が広い
- 以前は大きな手術も行っていたが、今はもう無理
- 看護師の数が足りていない
- 往診は現状でも手一杯だがまだまだ患者の紹介が来ているのでこれからもっと大変になる

安田内科医院 (古島)

- 町のなんでも相談屋さん
- 日課として先生に会いにくる人もいた
- 家庭の事情や患者さんの性格を理解した診療

田原坂クリニック (松尾)

- 平田院長先生は患者さんやそのご家族のことを深く理解し、丁寧な診療をしていた。
- EXドックを開いて患者さんを呼び込む、一人一人の顔と名前を覚えている。往診、送迎
- 看護実習と東洋医学を組み合わせた診療
- 病院と介護施設としての役割
- 幅広く診療

学んだこと

コミュニケーション

が大切！！

荒尾市民病院 (1・2年生)

荒尾市民病院

吉田、川中、倉、千田

内科系	外科系
循環器内科	外科
血液内科	脳神経外科
腎臓内科	整形外科
代謝内科	泌尿器科
放射線(診断、治療)	形成外科
消化器内科	産婦人科
小児科	麻酔科
神経内科	検診
皮膚科、呼吸器内科、一般内科	眼科、耳鼻科、血管外科がない
リエゾン(非常勤)	

1、荒尾市民病院について

- ・荒尾市唯一の急性期自治体病院
- ・病床数：274床
- ・救急搬送件数：年間1000件以上
- ・入院患者さんの75%が近隣の荒尾市、長洲町在住

～土曜医療～

- ＊地域の患者さんに来ていただく
- ＊地域の診療所からの紹介
- ＊地域住民に安心感を与える医療

2、午前の部

- ・9:00 HCU カンファレンス、救急、感染対策
- ・10:00 透析室
- ・10:30 放射線治療室
- ・11:00 手術室 手術見学、手洗い実習
- ・11:30 医療秘書室
- ・11:45 サーパールーム

3、午後の部

- ・13:00～内視鏡室 見学
- ・13:30～検査室 血液、生理、病理など
- ・14:00～放射線部 画像診断機器、画像検査の実験
- ・15:00～患者図書室 病診連携、相談支援業務
- ・15:30～医事 病院事務の説明、病院の収支
- ・16:00～北2病棟 回復期病等の見学
- ・16:30～第3会議室 総括

4、実習のまとめ

- ・荒尾市民病院は急性期から回復期までを担う
- ・県北の救急患者が搬送される
- ・小児科、救急外来などの科で医師の不足がみられる
- ・県北で唯一、放射線治療をおこなう設備が整っている

荒尾医師会 (3・4・5年生)

平成27年度 夏季地域医療特別実習

～荒尾市医師会 編～

松原 顕太(県5)、西岡 早子(自5)、井上 大雅(自4)、
田中 祥大(県3)、奥田 美香子(県3)

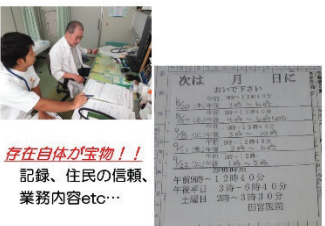


～荒尾市 編～

田宮医院 荒尾市大島町3丁目4-44

- ・内科、小児科
- ・明治44年開業(104年前)!
- ・いつでも診る：時間外診療500件/年
- ・訪問診療：18件/月
- ・できること：

血液検査、エコー、
内視鏡、レントゲン、
CT



存在自体が宝物!!
記録、住民の信頼、
業務内容etc...

伊藤医院 荒尾市四ツ山町3-5-2

- ・外来見学、施設見学、訪問看護など
- ・在宅医療について
- ・病院全体の雰囲気
- ・患者さんの話を一生懸命聴くということ

松山医院 荒尾市康万田462

- ・外来見学、身体診察・etc
- ・骨髄腫の患者さんが2人も…驚き!!
- ・感じたこと
…「地域で医師になるとのこと」



西原クリニック 荒尾市西原町1-4-24



西原クリニックの業務の特徴

- ・CTを備えている
- ・有床診療所である(一般病床19床)
- ・緩和ケアとがん治療両方できる
- ・訪問診療を行っている

感じたこと

- ・ネットワークを持った医院である
- ・医院ならではの患者さんへの配慮
- ・有明一の有床診療所というモチベーション

さとう総合内科クリニック 荒尾市荒尾上西田813-1

- ・外来見学、エコー見学、往診の見学など
- ・外来見学…様々な患者さん
- ・往診見学…患者さんの生活の理解
- ・患者さんの心の拠り所になれる医師

平成27年度 夏季地域医療特別実習 荒尾市 編

～完～

ありがとうございました!

山鹿市民医療センター (1・2年生)

山鹿市民医療センター
中嶋誠也
松田崇秀
今田真亜子
林田夏南子

山鹿市民医療センターについて

- ・病床数
201床(一般病床197床、感染4床)
- ・特徴
 - ・県北で唯一の緩和ケア病棟を開設
 - ・地域中核病院を目指す
 - ・救急告示病院

病棟見学(午前)

- ・中嶋 外科 手術見学 回診見学
- ・松田 整形外科 外来見学 回診見学
- ・林田 内科 外来見学 回診見学
- ・今田 内科 外来見学 救急車対応

緩和ケア病棟(特徴)

- ・病床13床
- それ以外に 談話室 家族控え室 面談室 キッチン
- ・県北で初めての緩和ケア病等
- ・24時間面会可能
- ・ペットOK
- ・飲酒OK

緩和ケア②(工夫)

- ・緩和ケアは「最期」の場所ではない
- 退院していく方もいる、イメージ改善
- ・緩和ケア病棟に入る前の担当の医師がそのまま引き継ぐ
- 安心感
- ・住民の方への緩和ケアの理解のための働きかけ
- 「がんサロン」等のイベント

整形リハ回診

- ・骨折(特に足)、入院で筋肉が弱ってしまった人などのリハビリや治療の経過を評価
- ・週一回、関係者全員参加
- ・リハビリは最初は平行棒(てすり)から始まり、歩行器、押し車、杖、と段階的に
- ・地域包括ケア病棟の見学

内科カンファ

- ・様々な職種の人々が集まりカンファレンスが行われていた。
- 山鹿市民医療センターでは、どの職種の人々も自由に発言できるような雰囲気づくりに努めている。
- ・病状だけでなく、患者さんの精神状態、家族などの情報も共有していた。

接遇

- 接遇とは?
- ・思いやりの心を込めて相手に接すること
- ・接遇のレベルを施設全体で統一することが大切

接遇②

- よい接遇を行うためのポイント
- ・見ること
- ・聴くこと
- ・届けること
- ・伝えること
- ・意識を持つこと
- ・安心感を与えること

まとめ

- ・地域の病院にはとにかく「いい」人が多い!
- 求められる医師像?
- いまからできることは……?
- 接遇!

お世話になった方々ありがとうございました

鹿本医師会 (3・4・5年生)

夏期地域医療 特別実習

鹿本医師会グループ
国武、宮野、山口、春木

実習先病院

春木…大塚病院
国武…かもと整形外科医院
山口…大橋通クリニック
宮野…山鹿温泉リハビリテーション病院

大塚病院

院長…大塚 英二
診療科…内科・胃腸科・循環器科・外科・整形外科・
肛門科・リハビリテーション科・麻酔科
病床数…32床
医師…常勤3名、非常勤2名
※往診を3カ所の施設(老人ホーム、知的障害者施設)、約8件の家で週2回程度行っている。
実習内容
内視鏡2件見学・外来見学・老人ホーム往診

かもと整形外科医院

院長…甲斐 信
診療科目…整形外科・リウマチ
病床数…19床

実習内容
施設案内・職員紹介
見学(外来・運動器リハビリ・義肢装具装着)

まとめ

- 5つのいいとこ
- ・患者さんへの説明が明確
- ・ルーチンと速く、個別的に対応するものはじっくりと
- ・義肢装具士・PTさんが超フレンドリー
- ・困ったことは全部聴く
- ・笑顔あふれる職場

義肢装具士のお仕事に一人一テンションがあがっていた
整形外科の診察について(神経学・運動器)理解が深まる
短時間で簡潔に説明し、深く理解できる工夫

大橋通クリニック

理事長…菅村充晃
院長…菅村安洋
診療科目…外科、整形外科、内科、胃腸科、リハビリテーション科、肛門科
病床数…19床

実習内容
回診見学・外来見学・通所見学・訪問診療見学

まとめ

- ・元々の専門は外科と整形外科だが、何でも診ている
- ・救急も受け入れており、地域の人たちに頼られている(頼られ過ぎ?)
- ・看護師の確保が難しい
- ・医療の範囲外カバーできるように通所を併設
- ・開業のいいところは、家族を診ることが楽しい
- ・他の病院や関係者との連携はなかなかうまくいっている
- ・看護師さんたちの付き合いは大事!

山鹿温泉リハビリテーション病院

院長…田代桂一
診療科目…内科・神経内科・リハビリテーション科・放射線科
病床数…101床
・医療療養:48床
・介護療養:22床
・回復期リハ:31床

実習内容
オリエンテーション・施設案内・障害者施設施設見学
在宅リハ・画像診断についての学習

まとめ

- ・熊本には珍しいリハビリに特化した病院
- ・障害のある患者さんを診察して、治療のプログラムを立てる。
- ・リハビリテーション科、内科、神経内科、放射線科などに加え、循環器や呼吸器など多岐にわたる知識が必要。
- ・脳血管障害などの後遺症を抱えた高齢者が多く、ダウン症など発達障害のある小児のリハビリも行われる。
- ・患者さんの家族背景を知って、介護などの相談にのるなど、まさに家庭医のように患者さんに寄り添える医師がリハビリテーション医には求められている。

ご清聴ありがとうございました



ご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。

巻末に別添資料【平成27年度 学生レポート】があります。

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療、各教員のそれぞれの専門療科外来診療等も一部担当しました。

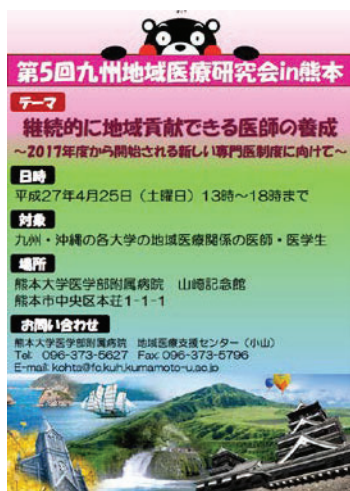
玉名教育拠点にては、「総合診療科」を立ち上げ、外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。（詳細は地域医療実践教育玉名拠点の診療の項目を参照してください。）

その他の学外においては、各教員が、複数の地域の医療施設にて、非常勤での診療支援活動を行いました。

大学病院				
総合診療外来				
月	火	水	木	金
谷口	松井	小山	谷口	松井
		西山		西山
救急外来				
谷口	月3～4回	日勤及び夜勤		
皮膚科				
緒方	週1外来	その他検査、病棟、手術、等業務		
精神科				
田中	週1外来	その他検査、病棟、等業務		
学外支援				
松井	週1	小国公立病院		
谷口	週1	上天草総合病院		
西山	週1	小国公立病院		
緒方	週1	公立多良木病院	週1	阿蘇医療センター
田中	週1	阿蘇やまなみ病院		

第5回 九州地域医療研究会 in 熊本

継続的に地域貢献できる医師の養成～2017年度から開始される新しい専門医制度に向けて～



平成27年4月25日(土) 13:00～18:00

平成27年4月25日に第5回九州地域医療研究会を地域医療システム学寄附講座が主催で開催しました。

当日は、熊本大学医学部医学科の平賀円さんをはじめとした宮崎・鹿児島・長崎大学の医学生が、地域医療に関する調査の結果報告や、現在まで学んできた地域医療とは何か、何故総合診療が求められるのかななどをテーマとして発表を行いました。

次に高知医療再生機構 理事長の倉本秋先生による基調講演があり、その後九州各県で地域医療を研究されている先生方による地域医療に携わる医師の育成などをテーマとした講演がありました。また、当院の田宮先生からは「地域医療実践教育玉名拠点の設置について」、小山先生からは「熊本県の地域医療の医師不足・偏在状況について」の講演をしていただきました。なお、熊本県の地域医療の医師不足・偏在状況について、県下有床病院における「地域医療アンケート調査」の結果は、前項の地域医療支援機構に記載しております。

演題①「卒業前に抱く疑問や不安」 熊本大学医学部医学科6年 平賀 円さん

演題②「総合診療科に関する疑問」 宮崎大学医学部医学科5年 枝元 真人さん

演題③「与論島方言調査実習を通して」 鹿児島大学医学部医学科1年 曾原 純さん



演題④「鹿児島の地域医療を見て」 鹿児島大学医学部医学科3年 大漣 玄德さん

演題⑤「大学における地域医療教育と学生の効果的な能動的学習促進について」

長崎大学医学部医学科6年 山崎 愛子さん

基調講演 「とる？とらない？専門医-地域医療ならいらないの？」 高知医療再生機構 理事長 倉元 秋先生

演題⑥「久留米大学医学部での地域枠学生の現状」 久留米大学医学部、地域医療連携講座 足達 寿先生

演題⑦「医療系学部学科1年生を対象にした方言調査実習の試み」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター 根路銘 安仁先生

演題⑧「継続的に地域貢献できる医師を養成するためには」～地域医療のイメージをかえる～

宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 松田 俊太郎先生

演題⑨「大分大学における地域医療従事者の育成とキャリア形成の両立への取り組み」

大分大学医学部地域医療学センター外科分野 上田 貴威先生

演題⑩「長崎県内の総合診療専門医育成にむけて連携の取り組み」

～総合診療専門医(家庭医療専門医)養成のための長崎県版連携プログラム～

長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構 ながさき県北地域医療教育コンソーシアム 中桶 了太先生

演題⑪「地域医療実践教育拠点玉名の設置について」

熊本大学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座 田宮 貞宏先生

演題⑫「熊本県の地域医療の医師不足・偏在状況について」

～県下有床病院における「地域医療アンケート調査」中間報告～

熊本大学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座 小山 耕太先生

松井 邦彦 特任教授

【学会発表】

第79回 日本循環器学会学術集会 //2015年4月26日

『循環器疾患におけるデータマネージングの重要性』

【論文】

■ **Determinants of Myocardial Lactate Production During Acetylcholine Provocation Test in Patients With Coronary Spasm.**

Kaikita K*, Ishii M, Sato K, Nakayama M, Arima Y, Tanaka T, Sugamura K,Sakamoto K, Izumiya Y, Yamamoto E, Tsujita K, Yamamuro M, Kojima S, Soejima H,Hokimoto S, **Matsui K**, Ogawa H.

J Am Heart Assoc. Dec 11;4(12). (2015) PMID: 26656861

■ **Low-Normal Serum Sodium and Heart Failure-Related Events in Patients With Heart Failure With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.**

Kusaka H, Sugiyama S*, Yamamoto E, Akiyama E, Matsuzawa Y, Hirata Y, Fujisue K,Kurokawa H, Matsubara J, Sugamura K, Maeda H, Jinnouchi H, **Matsui K**, Ogawa H.

Circ J. Dec 3.[Epub ahead of print] (2015) PMID: 26632535

■ **Prognostic Significance of Peripheral Microvascular Endothelial Dysfunction in Heart Failure With Reduced Left Ventricular Ejection Fraction.**

Fujisue K, Sugiyama S*, Matsuzawa Y, Akiyama E, Sugamura K, Matsubara J,Kurokawa H, Maeda H, Hirata Y, Kusaka H, Yamamoto E, Iwashita S, Sumida H,Sakamoto K, Tsujita K, Kaikita K, Hokimoto S, **Matsui K**, Ogawa H.

Circ J. Nov 25;79(12):2623-31. (2015) PMID: 26489455

■ **Acetylcholine-Provoked Coronary Spasm at Site of Significant Organic Stenosis Predicts Poor Prognosis in Patients With Coronary Vasospastic Angina.**

Ishii M, Kaikita K*, Sato K, Tanaka T, Sugamura K, Sakamoto K, Izumiya Y,Yamamoto E, Tsujita K, Yamamuro M, Kojima S, Soejima H, Hokimoto S, **Matsui K**,Ogawa H.

J Am Coll Cardiol. Sep 8;66(10):1105-15. (2015) PMID:26337988

■ **A trial of telmisartan prevention of cardiovascular diseases (ATTEMPT-CVD): Biomarker study.**

Ogawa H*, Soejima H, **Matsui K**, Kim-Mitsuyama S, Yasuda O, Node K, Yamamuro M,Yamamoto E, Kataoka K, Jinnouchi H, Sekigami T; ATTEMPT-CVD investigators.

Eur J Prev Cardiol. Aug 31. pii: 2047487315603221. [Epub ahead of print] (2015) PMID: 26324672

■ **Impact of candesartan on cardiovascular events after drug-eluting stent implantation in patients with coronary artery disease: The 4C trial.**

Sakamoto T*, Ogawa H, Nakao K, Hokimoto S, Tsujita K, Koide S, Yamamoto N,Shimomura H, Matsumura T, Oshima S, Kikuta K, Oka H, Kimura K, **Matsui K**; 4C(Candesartan for Prevention of Cardiovascular Events after CYPHER™ or TAXUS™ Coronary Stenting) study investigators.

J Cardiol. Aug 4. pii: S0914-5087(15)00191-4. (2015) PMID: 26254019





■ **Impact of Dual Lipid-Lowering Strategy With Ezetimibe and Atorvastatin on Coronary Plaque Regression in Patients With Percutaneous Coronary Intervention: The Multicenter Randomized Controlled PRECISE-IVUS Trial.**

Tsujita K, Sugiyama S*, Sumida H, Shimomura H, Yamashita T, Yamanaga K, Komura N, Sakamoto K, Oka H, Nakao K, Nakamura S, Ishihara M, **Matsui K**, Sakaino N, Nakamura N, Yamamoto N, Koide S, Matsumura T, Fujimoto K, Tsunoda R, Morikami Y, Matsuyama K, Oshima S, Kaikita K, Hokimoto S, Ogawa H; PRECISE-IVUS Investigators.

J Am Coll Cardiol. Aug 4;66(5):495-507. (2015) PMID: 26227186

■ **Liraglutide, a glucagon-like peptide-1 analog, increased insulin sensitivity assessed by hyperinsulinemic-euglycemic clamp examination in patients with uncontrolled type 2 diabetes mellitus.**

Jinnouchi H, Sugiyama S*, Yoshida A, Hieshima K, Kurinami N, Suzuki T, Miyamoto F, Kajiware K, **Matsui K**, Jinnouchi T.

J Diabetes Res.;2015:706416. (2015) PMID: 25922845 PMCID: PMC4398938

■ **A pilot study of ezetimibe vs. atorvastatin for improving peripheral microvascular endothelial function in stable patients with type 2 diabetes mellitus.**

Sugiyama S*, Jinnouchi H, Hieshima K, Kurinami N, Suzuki T, Miyamoto F, Kajiware K, **Matsui K**, Jinnouchi T.

Lipids Health Dis. Apr 23;14:37. (2015) PMID: 25903215 PMCID: PMC4417230

■ **Patients with both CYP2C19 loss-of-function allele and peripheral endothelial dysfunction are significantly correlated with adverse cardiovascular events following coronary stent implantation.**

Tabata N, Hokimoto S*, Akasaka T, Arima Y, Sakamoto K, Yamamoto E, Tsujita K, Izumiya Y, Yamamuro M, Kojima S, Kaikita K, Kumagae N, Morita K, Oniki K, Nakagawa K, **Matsui K**, Ogawa H.

J Cardiol. Apr 4. pii: S0914-5087(15)00095-7. (2015) PMID: 25851472

■ **Differential Effects of Strong and Regular Statins on the Clinical Outcome of Patients With Chronic Kidney Disease Following Coronary Stent Implantation - The Kumamoto Intervention Conference Study (KICS) Registry.**

Ishii M, Hokimoto S*, Akasaka T, Fujimoto K, Miyao Y, Kaikita K, Oshima S, Nakao K, Shimomura H, Tsunoda R, Hirose T, Kajiware I, Matsumura T, Nakamura N, Yamamoto N, Koide S, Oka H, Morikami Y, Sakaino N,

Matsui K, Ogawa H; Kumamoto Intervention Conference Study (KICS) Investigators.

Circ J. 79(5):1115-24. (2015) PMID: 25739954

■ **Plaque REgression with Cholesterol absorption Inhibitor or Synthesis inhibitor Evaluated by IntraVascular UltraSound (PRECISE-IVUS Trial): Study protocol for a randomized controlled trial.**

Tsujita K*, Sugiyama S, Sumida H, Shimomura H, Yamashita T, Yamanaga K, Komura N, Sakamoto K, Ono T, Oka H, Nakao K, Nakamura S, Ishihara M, **Matsui K**, Sakaino N, Nakamura N, Yamamoto N, Koide S, Matsumura T, Fujimoto K, Tsunoda R, Morikami Y, Matsuyama K, Oshima S, Kaikita K, Hokimoto S, Ogawa H; PRECISE-IVUS study investigators.

J Cardiol. Oct;66(4):353-8. (2015) PMID: 25577723

■ **Differential effectiveness of ARB plus CCB therapy and high-dose ARB therapy in high-risk elderly hypertensive patients: subanalysis of the OSCAR study.**

Kim-Mitsuyama S*, Ogawa H, **Matsui K**, Jinnouchi T, Jinnouchi H, Arakawa K; OSCAR Study Group.

Hypertens Res. Mar;38(3):199-207. (2015) PMID: 25471234

西山 功一 特任講師

【学会発表】

◆**第79回日本循環器学会学術集会** //2015年4月24日、25日

『Molecular and cellular mechanisms in angiogenic morphogenesis』

『Genetic and epigenetic regulation in angiogenic cell dynamics』

◆**Angiogenesis Gordon Research Conference** //2015年8月4日

『Coordinated angiogenic behavior of tip cell revealed by experiment-driven mathematical modeling』

◆**The 13th Japan-Korea Joint Symposium on Vascylar Biology** //2015年10月15日

『Coordinated angiogenic behavior of tip endothelial cell revealed by a combined approach with experiment and mathematical modeling』

◆**BMB2015** //2015年11月2日

『血管新生プレーヤーとしてのペリサイト』

◆**CVMW2015** //2015年12月11日、12日

『血管内皮細胞の血管新生運動を制御する細胞自律的・非自律的メカニズム』

『血管新生における血管壁細胞の役割』

◆**第121回日本解剖学会総会・全国学術集会** //2016年3月28日

『自律的に樹状構造をつくる血管細胞動態と制御機構』



【論文】

■**Autonomy and non-autonomy of angiogenic cell movements revealed by experiment-driven mathematical modeling.**

Sugihara K#, **Nishiyama K#***, Fukuhara S, Uemura A, Arima S, Kobayashi R, Köhn-Luque A, Mochizuki N, Suda T, Ogawa H, Kurihara H. #These authors contributed equally to this work.

Cell Rep, 13(9):1814-27, 2015. http://dx.doi.org/10.1016/j.celrep.2015.10.051. PMID: 26655898

■ **The accuracy of central blood pressure waveform by novel mathematical transformation of non-invasive measurement.**

Sueta D, Yamamoto E, Tanaka T, Hirata Y, Sakamoto K, Tsujita K, Kojima S, **Nishiyama K**, Kaikita K, Hokimoto S, Jinnouchi H, Ogawa H.

Int J Cardiol 189:244-61, 2015. DOI: 10.1016/j.ijcard.2015.03.182. PMID: 25897917

緒方 亜紀 特任助教

【学会発表】

◆**第33回日本美容皮膚科学会総会・学術大会** //2015年7月25日、26日

『サクシヨンプリスター法による皮膚移植が奏功した尋常性白斑の2例』

◆**第39回皮膚脈管・膠原病研究会** //2016年1月22日23日

『Red Tattoo reaction を呈した皮膚エリテマトーデス患者の一例』

田中 響 特任助教

【学会発表】

IPA International Congress 2015 //2015年10月14日

『Visual hallucinations are more common in early-onset than late-onset Alzheimer's disease』

【論文】

Relationship between eating disturbance and dementia severity in patients with Alzheimer's disease

Kai K, Hashimoto M, Amano K, **Tanaka H**, Fukuhara R, Ikeda M

PLoS One. 2015 Aug 12;10(8):e0133666. doi: 10.1371/journal.pone.0133666. eCollection 2015. PMID: 26266531

IV

その他

オンラインツールの利用開始



2015年5月1日より、『今日の臨床サポート』と『Procedures Consult』というオンラインツールを導入いたしました。将来地域で働く、熊本県医師修学資金貸与学生達や自治医科大学の熊本出身の学生達が、地域に行っても医療の勉強ができる、また彼らの診療のサポートになるようにと利用してもらっています。それぞれ、診療の情報や薬剤の情報を確認したり、手技や診察の手順を動画で確認したりすることができます。

西山 功一 特任講師

【診療支援 その他】

・週に1度 小国公立病院にて診療支援を行う

・月に1度 上天草総合病院にて診療支援を行う

・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加





【この1年を振り返って】

“もう一年過ぎてしまったのか”というのが現在の私の率直な心境です。昨年4月に循環器内科から地域医療システム学寄付講座に異動しました。当講座では、主に、大学病院の総合診療科、小国公立病院の循環器内科・内科外来、そして、上天草病院の循環器待機当直を担当することで地域医療への貢献を目指してきました。また、夏に開かれた医学部生主導の夏季地域医療学実習をお手伝いすることも、その一つの業務でした。地域医療、そして当講座へ十分な貢献ができたのだろうかというところは、少し心残りのところがありますが、少なくとも私自身にとっては意味深い1年でした。医療に従事してすでに20数年は経ちますが、あらためて医療とは何かを考え、そして地域医療の現状を知る大切な時間であったと思います。

大学病院では、総合診療科外来を週2回担当しました。もともと循環器内科が専門である私にとって、総合診療科という診療は、不安と戸惑いばかりでした。私は、循環器内科医の中でも一般内科医として診療に携わってきた期間が長かったこともあり、まあなんとかなるだろうという気持ちで赴任してきたわけですが、いざ蓋を開けてみれば、自身の診療技術の未熟さに、ただただ落胆させられる日々であったと言っても過言ではありません。一方で、私自身の診療理念が役に立つこともありました。偏見のない形でまず患者さんと向き合う、そして、可能な限り訴えを聞く耳を持つこと。総合診療科としての診療云々というより、それが医療の原点なのであろうと再認識する良い機会となりました。また、私の戸惑いの原因の一つを今ここで振り返って考えてみると、それは、地域医療の中での大学病院総合診療科の役割・立ち位置だったのかもしれませんが。私の認識不足に帰するところが歪めないわけですが、地域の診療機関が求めている大学病院総合診療科像との齟齬を感じる場面が少しありました。例えば、大学病院総合診療科への入院診療を含めた依頼などに現れています。ただ、この点は組織自体の成熟や地域との病診連携が充実していくことで解決されることであり、医療の原点を考えればちっぽけなことかもしれません。

小国公立病院では週一回の外来担当で、循環器病の患者さんを中心に一日約40—50人程度の診療に従事しました。今から20年位前、私の大学院時代4年間、同科で診療させていただいていたので、患者さんとの久々の対面でした。当時は、遅い時には夜8時ぐらまで診療がかかることもあったのですが、現在では人員が増え、循環器科としては充実しているように思えます。ただその反面、以前に比し常勤の内科医が減り、非常勤医でそれを補っている現状があるようです。小国町自体の高齢化が進み、地域から求められている医療・福祉が変化していることを実感します。家庭医的な内科系常勤医師の増員が必要なのかもしれません。上天草総合病院では、循環器科の待機当直を行いました。同病院では循環器科医師が1人であることから、同医師が常に待機状態です。私を含めた2人の循環器医師が月2回、週末にその待機を代わるといもので、基本的に、病棟患者の病態悪化時、救急外来での循環器疾患の対応が主な業務です。少しでもお役に立てたであろうことを望むのみです。地域医療、特に熊本県内の主要市街地以外の医療現場では、地域のニーズに合わせた医療体系、そして従事する医師へのバックアップ体制を十分考えるべきなのでしょう。

総合診療や地域医療に従事する人材育成のため、学生の教育や後進の指導に直接貢献できなかったことは、私自身のこの一年の心残りの一つです。こういう人も居たのだという一例として、今後、間接的な影響でも与えることができればこれ幸いです。

田中 響 特任助教

【診療支援 その他】

- ・週に1度 阿蘇やまなみ病院にて診療支援を行う
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加

【この1年を振り返って】

平成27年4月に特任助教として当講座に着任し、1年が過ぎようとしております。附属病院内での業務として神経精神科における外来・入院治療に携わりつつ、地域医療支援として週に1度、阿蘇やまなみ病院で認知症外来診療および当直勤務を行っています。

この1年を振り返ってみますと、8月に開催された夏季地域医療特別実習のことが真っ先に思い返されます。地域医療の第一線で活躍されている講師陣によるレクチャー、副知事のダイナミックな語り、体験実習に協力いただいた先生方の期待に満ちた眼差し、そして学生たちのひたむきさ。おそらく加温がされていないと思われる温泉のぬるさを感じさせないほどの熱気をおびており、のぼせそうになりました。学生の頃より地域医療の実情を実践的に知ることは、求められる医師像を具体的にイメージすることにつながると強く感じた実習でした。

話は変わりますが、認知症の早期発見・診療体制の充実、医療と介護の連携強化、専門医療相談の充実を図ることを目的に、「認知症疾患医療センター」が県内10カ所の医療機関に設置されております。私が勤務する阿蘇やまなみ病院がそのうちの一つなのですが、高齢化を受け増えゆく認知症者数に対しセンターのみで対応できるわけもなく、最近では紹介元の地元の先生のほうから「診断後のフォローは当院で行います」旨のお手紙を頂くことも増えております。大変感謝するとともに、国が掲げる「認知症の人の意思が尊重された地域生活の実現」のためには、地域で支えるかかりつけ医の先生方のお力なくしては成し得ないだろうと感じる日々です。



緒方 亜紀 特任助教

【診療支援 その他】

- ・週に1度 多良木公立病院、阿蘇医療センターにて診療支援を行う
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加

【この1年を振り返って】

皮膚科医9年目となった平成27年4月からの1年間、当講座に在籍させていただきました。少子高齢化社会を背景に医療はたくさん抱えており、当講座は大変重要で多様な役割を果たしています。

私は地域医療の一環として毎週月曜は阿蘇医療センター、木曜日は公立多良木病院で皮膚科外来を担当させて頂きました。朝は6時過ぎに家を出て9時頃診療を開始し、夕方に大学病院に戻り通常業務を行い夜遅くに帰宅するというハードスケジュールではありましたが、いつも多くの患者さんが長い待ち時間に文句も言わず診察を待っていてくれました。患者さんに必要とされているという実感は疲れが吹き飛んでしまうほどの大きな喜びでした。と同時に限られた診療時間内で、患者のニーズ、家族背景や病院の機能等を考慮し診断・治療をマネジメントする必要があり、自分自身のスキルアップの必要性を痛感する場でもありました。実際の医療現場にたち地方が抱える様々な医療の問題点を肌でひしひしと感じました。その最大の問題が「地方の深刻な医師不足」です。

将来、地方医療の救世主となる自治医科大および熊本大学地域枠の学生たちと2泊3日の夏季実習を通して関わる機会を頂きました。今年度の夏季実習は玉名・荒尾・山鹿地域で行われました。コメディカルとのワールドカフェ形式のディスカッションや地域医療の見学・実習、勤務医・開業医の先生方、スタッフ、副県知事との交流などユニークで盛りだくさんの内容で、私自身自分の立場を忘れて大いに学び楽しみました。志高く勉学に励む学生の姿はとても頼もしく、現場で患者に寄り添った地域医療を実践されていた開業医の先生、全国から駆け付けてくださった臨床と教育を実践されている先生方からも大きなエネルギーをもらいました。

学生さんはいよいよ女子学生が増えておりましたが、当講座では女医の鏡である後藤先生が男女共同参画推進委員として精力的に活動されています。時短勤務を利用して女性医師のキャリアサポートを行っている皮膚科に所属する医師として私も微力ながら活動をお手伝いさせて頂きました。将来的には育児だけではなく介護や自身の闘病のための休暇や時短制度もより顕在化すると考えられ、年齢、立場、結婚未婚に関わらず他人事ではない非常に重要な取り組みであることを再認識しました。

最後に当教室の先生方は個性豊かで様々な能力に溢れる先生方ばかりでした。先生方と同じ教室に在籍し、活動を共にさせていただいたことは大きな財産となりました。負けず劣らずユニークな教室および県庁職員の方々との交流も大変貴重で楽しいものでした。当講座在籍期間中に果たせた役割は微々たるものでしたが、今後も当講座で学んだことや感じたことを糧に、地域医療の一助となるべく自身の研鑽を怠らず、後輩の指導、皆が心身ともに健康で息長く働くことのできるよう環境調整等に努めていきたいと思っております。

1年間ありがとうございました。

簡易年表

	熊本県の寄附によって熊本大学医学部附属病院に地域医療システム学寄附講座開設
平成21年度	国保レセプト調査研究
	第1回地域医療ゼミ開催（平成27年3月まで月に一度継続して開催）
	病院アンケート調査研究
	地域医療実習（山都町馬見原地域）
平成22年度	地域医療実習（小国町・南小国町）
	医療情報伝達に関する調査研究（調査期間：平成22年8月～同年10月）
平成23年度	地域中核病院の救急外来患者調査研究（平成22年11月～平成23年1月）
	地域医療セミナー（上天草総合病院）
	地域医療実習（上天草市）
	地域医療セミナー（小国公立病院）
	地域中核病院の救急外来患者調査研究（第2段）（平成23年1月～同年12月）
平成24年度	地域医療セミナー（上天草総合病院）
	地域医療実習（人吉・球磨地方）
	長崎県へき地・離島医療システムの調査研究
	医師の移動に関わる要因の調査研究
	国保レセプト調査研究（第2段）
平成25年度	地域医療セミナー（小国公立病院）
	地域医療実習（天草市）
	熊本県地域医療支援機構発足
平成26年度	熊本大学医学部附属病院にて熊本県地域医療支援機構の業務開始
	地域医療実習（阿蘇地方）
	クローバーの会発足（男女共同参画推進）
平成27年度	地域医療実践教育玉名拠点開所
	地域医療実習（玉名・山鹿・荒尾）
	地域医療システム学寄附講座改組（平成28年度より地域医療・総合診療実践学寄附講座へ）



1 年間スケジュール

2015

4

- 5

- 6

- 7

- 8

- 9

- ・17日 疼痛と緩和の勉強会

2 スタッフ紹介

- 久保田 雄二 専門修練医

3 活動概要

6月からは新しい後期研修の専攻医を受け入れ後期研修を開始し、また、特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）の「地域医療実習」も受け入れ、さらに、臨床研修で熊本大学のプログラムの研修医で「総合診療」の選択研修も受け入れ、これらが、いわゆる「屋根瓦方式」で教育体制として実施する方向性を模索しました。 ▶▶

10

- 11

- 12

- ## 2016

1

- 2

- 3

- 17日 疼痛と緩和の勉強会
- 18日 玉名薬剤師会「総合診療について」の講演

次年度は、さらに新しい専攻医2名を受け入れる予定で、公立玉名中央病院が臨床研修基幹病院として初めて研修医を受け入れることとなり、「地域医療実践教育玉名拠点」のさらなる充実化を図って、卒前教育から後期研修までの継続性・連動性のある教育活動を推進して参りたいと考えており、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

I

教育

1

特別臨床実習（5・6年生）

-

1 週目		月	火	水	木	金	
	7:30～			プライマリケアレクチャー			
	8:30～	医局ミーティング/総合診療科入院患者病棟回診					
	9:00～	外来研修(小山)		外来研修(田宮)	外来研修(小山)	訪問診療(安成)	
	13:30～	外来レビュー	外来レビュー・総合診療科 入院患者カンファレンス	訪問診療(安成)	外来レビュー/各種講義		
	15:00～	病棟研修	病棟回診		病棟研修	病棟研修	
	15:30～		病棟研修		緩和ケア回診		
	16:30～	新患カンファレンス			病棟研修		病棟研修
	17:00～	振り返り					週間振り返り
	17:30～	自己研修					
2 週目		月	火	水	木	金	
	7:30～			プライマリケアレクチャー			
	8:30～	医局ミーティング/総合診療科入院患者病棟回診					
	9:00～	訪問看護(玉名)	外来研修(小山)	外来研修(田宮)	外来研修(小山)	訪問診療(安成)	
	13:30～		外来レビュー・総合診療科 入院患者カンファレンス	訪問診療(安成)	外来レビュー/各種講義		
	15:00～	病棟研修	病棟回診		病棟研修	病棟研修	
	15:30～		病棟研修		緩和ケア回診		
	16:30～	新患カンファレンス			病棟研修		病棟研修
	17:00～	振り返り					週間振り返り
	17:30～	自己研修					
3 週目		月	火	水	木	金	
	7:30～			プライマリケアレクチャー			
	8:30～	医局ミーティング/総合診療科入院患者病棟回診					
	9:00～	外来研修(小山)		外来研修(田宮)	外来研修(小山)	実習総括	
	13:30～	外来レビュー	外来レビュー・総合診療科 入院患者カンファレンス	訪問診療(安成)	外来レビュー/各種講義		
	15:00～	病棟研修	病棟回診		病棟研修		
	15:30～		病棟研修		緩和ケア回診		
	16:30～	新患カンファレンス			病棟研修		ジャーナルクラブ
	17:00～	振り返り					
	17:30～	自己研修					

2 初期臨床研修

- 総合診療科を選択した、他院の臨床研修プログラムの初期研修医の受け入れを行っています。救急外来、病棟管理、総合診療科外来（初診からその後のフォローまで）、そして訪問診療など、地域中核病院というフィールドならではの、包括的な教育を行っています。
- 地域医療システムを理解する一貫として、病院の外でも、施設でのケアカンファや、介護認定審査会、幼稚園の集団健診にも積極的に参加しています。
- また、教育拠点の一員として、実習にきた医学生指導の役割を担い、屋根瓦教育を行っています。



初期研修医へのインタビュー

熊本大学医学部附属初期研修医2年の香田と申します。この度、初期研修2年目の8月と1、2月を公立玉名中央病院の総合診療科で研修させていただきました。

玉名での研修では、病院（外来・病棟）・在宅の現場にどっぷり携わりながら、様々な生きた経験を得ることができました。外来・病棟では、新患患者の診療だけでなく、初診後の継続外来を経験したり、入院患者退院後のフォローアップ外来なども経験したりすることで、あらゆる心身の不調の相談に乗り、時間軸で考えながら継続的に患者を中心に据えたケアを提供し、無駄な医療行為を避けながら、重大な疾患を逃さない臨床能力を磨くことができました。訪問診療では、介護認定審査会やケアカンファなどにも出席させていただき、生活や地域の目線を持った包括的な医療について学ぶことができたと思っております。また、ちょうど選択期間中に医学生も実習にきており、屋根瓦教育の一員として医学生指導にあたることができたのは、私のこれまでの学びをアウトプットするいい機会・経験となりました。

私の初期研修2年間を振り返ると、大学病院ならではの専門的な学びに加えて、今回の玉名での地域中核病院をフィールドとした地域医療や総合診療を学ぶことができたおかげで、最初の2年間という頭の柔らかいうちに、医師として求められる知識・技術・態度についてバランスよく研修することができたと考えております。大学病院の初期研修医が、研修の中で、玉名の教育拠点を選択できるメリットは非常に大きいと感じました。

熊本大学医学部附属病院群 卒後臨床研修プログラム「総合診療・地域医療特化コース」

『継続的に地域貢献できるジェネラリストを育成する』

公立玉名中央病院は有明医療圏、特に玉名市周辺における地域医療を最前線で担っており、診療圏は玉名市以外に県北部を広くカバーしています。患者を疾患単位ではなく、一個の人間として捉え、職場・家庭環境に至るまで、病前・病中・病後まで、時間軸で診療を行っています。また、一次・二次救急医療も担っており、地域完結型の救急医療も研修が可能です。

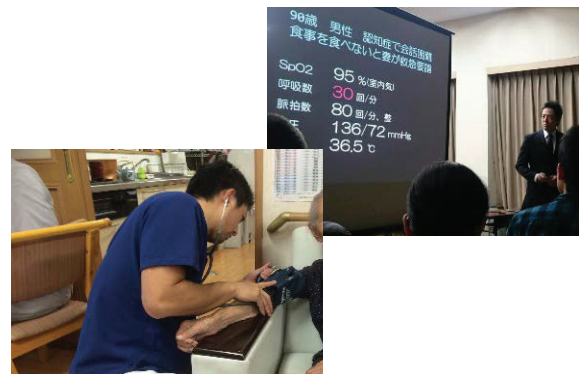
医師不足にある地域で研修することは、すなわち、一人の医師が担当できる患者の人数が必然的に多くなり、研修医が経験すべきcommon diseaseを数多く経験でき、指導体制が整いつつある当院での地域医療研修は、研修医として経験を積むには最適な環境とも言えます。主治医として主体的に診療に関わる結果、「自分の患者さん」という意識を持ち易く、責任を持って優しく接し、患者の為、地域の為に貢献する事ができます。

地域医療（必修3ヶ月）・総合診療科研修（選択科目1ヶ月～）の場合のスケジュール

	月	火	水	木	金
7:30～			プライマリケアレクチャー		
8:30～	医局ミーティング/総合診療科入院患者病棟回診				
9:00～	外来研修(小山)		外来研修(田宮)	外来研修(小山)	訪問診療(安成)
13:30～	外来レビュー	外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス	訪問診療(安成)その他	外来レビュー/リハビリ研修	
15:00～	病棟研修	病棟回診	病棟研修	病棟研修	病棟研修
15:30～		病棟研修	緩和ケア回診	病棟研修	
16:30～	新患カンファレンス			病棟研修	
17:00～	振り返り			振り返り・抄読会	週間振り返り
17:30～	自己研修				

3 専攻医研修

- 「熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム」の専攻医として、指導医からフィードバックを受けながら、日々、研修しています。複数の疾患を併せ持つ方や、他科的に診断がつかなかった方などの診療を通して、専攻医としての腕を磨き、地域医療に貢献しています。
- 拠点での研修は、臨床の現場で診療を経験するだけではありません。地域の住民に対して健康講座を開催する等、予防にも積極的に参画します。病前・病中・病後すべての経験・実践を大事にしています。
- また、実習・研修にきた医学生・初期研修医の指導を行い、「教えることから学ぶ」を実践しています。



専攻医へのインタビュー

公立玉名中央病院総合診療科に勤めております後期研修1年目の楯と申します。初期研修終了後の3年間の総合診療専門医プログラムの専攻医として、1年目を公立玉名中央病院総合診療科にて後期研修させていただきました。以下、主に大学病院で行った初期研修と比較して、仕事内容としてはどう異なるかを報告したいと思います。

大学病院での初期研修医の仕事は、病棟業務が主であり、具体的には1ヵ月平均のべ5～10人程度の患者を受け持ち医として担当し、主治医(上級医)と共に患者の診療を行い、カンファレンスや、それに対するプレゼンテーション準備(スライドやサマリ作成)や、各科でしかできない専門性の高い検査処置手術を実際に体験するといったことを経験しました。公立玉名中央病院総合診療科での専修医の仕事は、病棟業務については、1ヵ月平均のべ20～30人程度の患者を主治医として担当し、指導医と共に朝夕に定期的に回診し、入院契機となった疾患の他に患者の抱える医学的な問題に対しても適切な介入を行うと共に、社会的、経済的な背景等も考慮して退院後の継続的な診療への橋渡しをするといった全人的な医療の提供を実践しました。外来業務については、ほぼ毎日外来を行い、問診・診察ならびに検査と治療の組み立てを一人で担当し、都度指導医に相談することで適切な診療を行うことができました。その他、学びの振り返りとしてのポートフォリオ作成や、市民公開講座での講演、学会発表等の仕事は、今までに得た知識の確認と、そのブラッシュアップを図る上で絶好の機会となりました。また、救急外来当直での救急対応も行った他、週に1回の訪問診療では、少ない医療資源下での在宅医療の難しさ、問診及び身体診察の重要性を再認識しました。

このように、公立玉名中央病院総合診療科での後期研修は、将来一般内科開業医を目指す私としては、非常に効率のよい研修であったと感じています。

熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム

熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラムは、2017年度に予定されている新たな専門医制度のスタートと、そこで第三者機関により運営される総合診療専門医制度を視野に入れて、総合診療専門研修としての診療所・小病院研修や病院総合診療部門での研修を通して、総合診療専門医を養成するプログラムです。本プログラムでは、関連病院とも連携しつつ、3年間で総合診療専門医の資格取得を目指します。また、将来、地域医療を担う医師を“オールくまもと”で継続的に循環派遣することを大きな目的としています。

初年度となる平成27年度は2名の後期研修医が応募し、公立玉名中央病院で専門修練の研修をしています。

公立玉名中央病院での専攻医研修のスケジュール

	月	火	水	木	金
7:30～			プライマリケアレクチャー		
8:30～	医局ミーティング/総合診療科入院患者病棟回診				
9:00～	外来研修(小山)		外来研修(田宮)	外来研修(小山)	訪問診療(安成)
13:30～	外来レビュー	外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス	外来レビュー		
15:00～	病棟研修	病棟回診	病棟研修		
15:30～	緩和ケア回診	病棟研修			
16:30～	新患回診				
17:00～	振り返り			振り返り・抄読会	週間振り返り
17:30～	自己研修				

4 講演会

第1回 地域医療実践教育玉名拠点セミナー 『省察の教育的効果について～ポートフォリオの活用方法～』



平成27年8月14日(金) 17:30～19:00
講師:高柳 宏史 先生(福島県立医科大学 地域・家庭医療講座 助手)

今年度、公立玉名中央病院に地域医療実践教育玉名拠点が新たに設置されたことを機に、地域での医学教育、特に新しい「総合診療専門医」の研修においても必須とされるポートフォリオを用いた教育法に関し、福島県立医科大学 地域医療・家庭医学講座および日本プライマリ・ケア連合学会専門医部会の学術部門幹事である高柳宏史先生をお招きし、様々な事例を通して実践的な手法と理念を学びました。

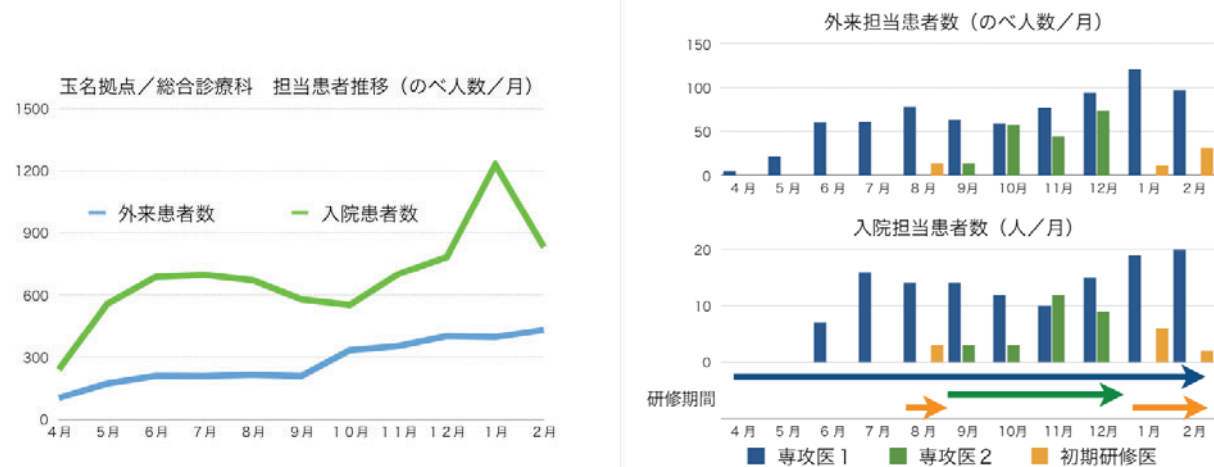
II 診療

2名の大学教員と後期研修医(専攻医)を中心に初期研修医、特別臨床実習の学生を受け入れ、総合診療科として診療を行っています。

いわゆるcommon diseaseはもちろん、受診すべき専門診療科が判断困難な症例、問題点が多数存在する複雑な症例を積極的に受け入れ、救急外来の当番、当直のローテーションにも入ることで総合診療科として担当する外来・入院患者は順調に増加し、他診療科の負担が軽減し、病院全体の診療が円滑になっています。

また、総合診療科のチームの一員として診療に参加することで、専攻医・初期研修医・臨床実習学生は常勤の大学教員の指導のもと多様な症例を多数経験することが可能となり、玉名拠点でしか得られない充実した研修を行っています。

なお、大学教員はそれぞれ週に1度は大学病院に戻り、公立玉名中央病院での症例を地域医療システム学寄附講座の教員たちと共有、相談をして連携をとっています。



玉名拠点				
月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	小山	小山
	楯		楯	
熊大病院				
田宮		小山		

III 研究

田宮 貞宏 特任准教授

【学会発表】
第20回 日本緩和医療学術大会 //2015年6月20日
『院内緩和ケアチームのサービス向上を目指して』

小山 耕太 特任助教

【論文】

Remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome in individuals with type 2 diabetes mellitus or impaired glucose tolerance.

Oyama K, Taniguchi J, Goto R, Matsui K:

Diabetes Research and Clinical Practice, Volume 110, Issue 1, October 2015, Pages e5–e8 PMID: 26293448

IV その他

テレビ特集：各テレビ局より



平成27年4月10日 TKUやKABなどで地域医療実践教育玉名拠点の開所式の様子が取り上げられました。
(画像はTKU みんなのニュースより)



平成27年6月3日18:35 KAB くまパワにて地域医療実践教育玉名拠点についての特集が放送されました。

新聞記事：熊本日日新聞より



田宮 貞宏 特任准教授

【診療支援 その他活動】

- ・週に2度 公立玉名中央病院にて診療支援を行う
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加



【この1年を振り返って】

地域医療実践教育玉名拠点の始動の年であったわけですが、地域で総合診療的スタンスで診療を行う医師の存在価値と地域で医学教育を行う価値を実感した1年でした。以下、医学生、研修医、専修医と指導医が総合診療科としてグループ診療を開始することで見えてきたことを以下述べさせていただきます。

まず、教育面では、医学生、研修医、専修医は、外来診療、入院診療、院内コンサルトを受けることで、指導医の元、common diseaseを数多く経験するだけではなく、担当すべき専門診療科がわからない症例、多岐にわたる問題点を抱えた症例を初診から外来、入院診療に留まらず、開業医の先生のご指導もいただき、訪問診療も研修する体制ができています。これは大学や都市部の大病院ではできないものです。

もう一つの課題である地域医療の診療サポートという面では、総合診療科が開設されたことで、担当する診療科が決まらない「院内たらい回し」がなくなり、多岐にわたる問題を抱えた患者を担当することで、各々の専門診療科が専門領域の診療に集中可能な環境作りに貢献できています。

今後、玉名拠点ならびに公立玉名中央病院が医療機関として地域住民、近隣医療機関、医療者に信頼されるように日々の診療を誠実にを行い、連携することが、教育の場としてのアドバンテージをより高め、地域医療やプライマリケア研修の価値を医学生が理解し、地域医療機関を将来の研修先として考えてもらうことにつながるでしょう。このことは地域医療やプライマリケアを志す若手医師はもちろん指導医候補のニーズに応えることと同義になります。

「地域で医師を育てる」ことがもたらす成果はすぐに示すことはできないかもしれませんが、着実な前進があったと確信しています。この1年の動きは将来地域で活躍する医師の確保に必ず繋がってくると思います。

小山 耕太 特任助教

【診療支援 その他活動】

- ・週に1度 公立玉名中央病院にて診療支援を行う
- ・2015年8月17日～19日 平成27年度夏季学生地域医療特別実習に参加



【この1年を振り返って】

2015年4月から公立玉名中央病院に新しく設置された「地域医療実践教育玉名拠点」に特任助教として着任し、更に新しく総合診療科を立ち上げ、診療を実践したこの1年間、様々な業務に従事して参りました。その中でも、ここでは「総合診療科立ち上げ」「学生・研修医教育」「研究」の3つに絞って報告させていただきます。

まず、「総合診療科立ち上げ」についてですが、これまでになかった新たな診療科を立ち上げるに伴い、「総合診療科の周知」を特に重点的に行いました。院内職員に対して適宜行われる勉強会や講習会に参加し、そこで院内職員に対して、診療業務についての説明を行いました。そもそも、総合診療科の業務に触れたことのない方々にとって、その診療内容については知る由もない状況でしたので、実診療を通して、どの様に病院に対して貢献できるのかを説明しました。その結果、ある程度の時間を要しましたが、多くの職員も徐々に院内でも我々の活動やその貢献度を実感するに至り、それまでの「どの様な患者を総合診療科にお願いして良いか分からない」という意見が、「どの科にお願いしたら良いか分からない患者は総合診療科にお願いする」という意見にアンケート調査でも変化していることが分かりました。診療業績でも、院内での収益にある程度の貢献もあったと聞いております。

次に「学生・研修医教育」についてですが、昨年度、熊大病院内で主に勤務する立場で関与したそれと、現在の地域中核病院の指導医として関わったそれは、大きく異なっていました。まずは、実臨床の現場で診療を実践し、その中で学生や研修医を指導する点が異なります。実際の患者を元に、実際の病態の中から「診て」「触れて」学ぶ診療参加型の教育は、指導を受ける側からも好評を得ました。特に学生にとって、それまで大学の教育カリキュラムの中で机上の学習で得た知識を実際に目の当たりにするのは、より確実な理解度を得るのに適した教育手法であると実感しました。また、初期臨床研修医や後期研修医に対しても、実際に患者の主治医として責任ある立場で診療を実践することで、「自分の患者」という意識を持つことが可能となり、特に「総合診療専門医プログラム」に参加する後期研修医の先生からは、大学で初期臨床研修医時代に学んだことを、正に応用することができ、また、市民公開講座等で疾病予防啓蒙活動に携わったり、退院後の訪問診療にも参加したりすることで、「時間軸での診療」を実践することができたとの評価を得ることができました。

最後に「研究」についてですが、臨床研究については、2015年7月に「Remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome in individuals with type 2 diabetes mellitus or impaired glucose tolerance.」のタイトルでケースレポートをDiabetes Res Clin Pract.に投稿し、掲載されました。また、熊本県全土の有床医療機関に対して2014年度に地域医療アンケート調査を行い、地域における医師の不足状況や、勤務医の労働環境・年齢構成等を調査しました。内容・結果については別途、報告しました。

別添資料

平成27年度学生レポート

1. 夏季地域医療特別実習レポート 熊本大学参加者
2. 夏季地域医療特別実習レポート 自治医科大学参加者
3. この6年を振り返って

熊本大学6年生(熊本県医師修学資金貸与学生)



あ と が き

2013年に地域医療支援機構が設置され、2014年度から熊本大学医学部附属病院に業務が委託されると同時に、我々が赴任して活動を行って参りましたが、2年目の2015年度は、振り返ってみて、様々な苦労もありましたが、その進展の着実な歩みと、次年度への思いを改めて強くしました。

地域医療支援の観点から、公立玉名中央病院のご理解を得て、今年度は具体的に同院に学外の教育拠点を設置することができ、地域医療支援の観点から、公立玉名病院のご理解を得て、今年度は具体的に同院に



谷口 純一
熊本大学医学部附属病院
地域医療支援センター
特任准教授

学外の教育拠点を設置することができ、総合診療科としての地域での医療への貢献と、卒前および初期研修の地域医療の教育の実践と、特に総合診療専門医の養成を開始することができ、これからの熊本県における地域医療支援の一つの具体的なモデルを提示することができるのではと感じております。公立玉名中央病院の中野病院長を始め、関係者にはこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

一方で、県の修学資金貸与生との関わり、実際の診療支援、総合診療専門医制度導入への準備、卒前の医学教育との関わり、学外の地域医療関係者との関わり、男女共同参画に関する活動、等々、地域医療支援機構としての活動を、本年度はさらに行ってきたつもりではありますが、まだまだ不十分なところもあり、関係各位のご期待にお答えできるのはこれからと言った状況にて、何卒ご容赦下さい。

次年度は、新しい「地域医療・総合診療実践学寄付講座」の診療・教育・研究等のさらなる活動を期待しつつ、連携して地域医療支援の活動を行っていく所存です。地域医療支援機構も、県や地域医療の関係者ともこれまで以上に密なコミュニケーションを取っていく新たな取り組みも行っていく予定です。

最後に、水田病院長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当地域医療支援機構の事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、我々の活動に多大なるご尽力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

問い合わせ先

熊本県地域医療支援機構

熊本大学医学部附属病院 地域医療システム学寄附講座（平成28年度より、地域医療・総合診療実践学寄附講座）

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

TEL:096-373-5627 FAX:096-373-5796

ホームページ: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>

E-mail: chiiki-iryo@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp



平成27年度夏季学生地域医療実習 最終日
公立玉名中央病院にて